

第2次

常陸大宮市スポーツ推進計画

令和5年(2023年)3月
常陸大宮市教育委員会

はじめに

本市では、「常陸大宮市スポーツ推進計画（計画期間：平成30年（2018年）度～令和4年（2022年）度」を策定し、「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現」を基本理念に掲げ、様々な施策を展開してまいりました。

この推進計画期間中には、令和元年度に「いきいき茨城ゆめ国体2019」が本県で開催され、また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に伴い、本市においては、パラオブルーサポーター（本市の東京2020大会に向けたボランティア）が組成されるなど、地域のにぎわいやスポーツに対する意識が大きく高まりました。一方で、令和2年（2020年）1月頃から国内で始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市民の生活・行動様式が大きく変化するとともに、スポーツイベントの中止や縮小、スポーツ施設の利用制限が繰り返されるなど、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しました。

このため、市教育委員会では、「withコロナ」「ポストコロナ」時代における市民の生活やニーズの変化を捉えつつ、令和4年（2022年）度に国が策定した「第3期スポーツ基本計画」で掲げられた新たな3つの視点「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」等の趣旨、本市の最上位計画である「常陸大宮市総合計画（ひたちおおみや未来創造ビジョン）」や「常陸大宮市教育振興基本計画」で掲げている「年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、市民誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健康増進や生きがいづくりに取り組むことのできる、活気のあるまちを目指します」等の趣旨を踏まえ、本計画の基本理念である「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現」を引き続き推進してまいります。

また、基本方針として、「生涯スポーツの推進・普及」「スポーツ団体の育成・指導体制の充実」「スポーツ環境の整備・充実」「スポーツを通じた人と人との『つながり』と『交流』の推進」の4つの柱を掲げ、それぞれの具体的施策に市民や各スポーツ団体、地域、学校等が連携、協働して取り組むことで、「生涯スポーツ社会の実現」を目指してまいります。

結びに、本計画策定にあたり、貴重なご提言をいただきました常陸大宮市スポーツ推進審議会委員の皆さまをはじめ、アンケートにご協力をいただきました市民の皆さま、関係者の方々に心より感謝申し上げます。



令和5年（2023年）3月

常陸大宮市教育委員会
教育長

小野 司寿男

目次

第 1 章	計画策定の基本的事項	
	1. 計画策定の趣旨	P. 2
	2. 計画の位置付け	P. 3
	3. 計画の期間	P. 4
	4. 計画における「スポーツ」の定義	P. 4
第 2 章	計画策定の背景	
	1. 国、茨城県の動向	P. 6
	2. 社会情勢の変化とスポーツとの関係 ~with コロナ時代の中で~ ..	P. 9
	3. 市民アンケート調査結果概要	P. 12
	4. 前回計画実績・評価	P. 20
第 3 章	計画の基本的方向	
	1. 基本理念	P. 23
	2. 基本方針	P. 23
	3. 施策の体系	P. 25
	4. 数値目標	P. 27
第 4 章	施策の展開	
	1. 生涯スポーツの推進・普及	P. 30
	2. スポーツ団体の育成・指導体制の充実	P. 36
	3. スポーツ環境の整備・充実	P. 40
	4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進 .	P. 42
第 5 章	推進体制と進行管理	
	1. 各推進主体の役割	P. 45
	2. 進行管理	P. 46
資料編		
	1. 常陸大宮市スポーツ施設位置図	P. 48
	2. 常陸大宮市スポーツ施設一覧	P. 49
	3. 常陸大宮市スポーツ推進審議会委員名簿	P. 54
	4. スポーツ推進会議開催経過	P. 55
	5. 市民アンケート調査結果詳細	P. 56

第 1 章

計画策定の基本的事項

第1章 計画策定の基本的事項

1. 計画策定の趣旨

- ・我が国では、平成23年（2011年）に、スポーツ推進のための基本的な法律として「スポーツ基本法」が定められました。本法では、全ての人々に、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならないと規定されました。平成24年（2012年）には、スポーツ基本法に基づき国、地方公共団体、スポーツ団体等が一体となって、スポーツ施策を推進していくための「スポーツ基本計画」が策定され、令和4年（2022年）には、新型コロナウイルス感染症の拡大や国民生活・スポーツ界の変化等を踏まえた「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。
- ・本市では、スポーツ基本法や平成27年（2015年）に策定された「茨城県スポーツ推進計画」等の趣旨等を踏まえ、平成30年（2018年）に、市民と行政との協働によって、誰もがスポーツに親しみ、健康な体づくりと心豊かな生活を送ることができ生涯スポーツ社会の実現を目指した「常陸大宮市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツ振興に関する各種施策に取り組んできました。
- ・令和4年（2022年）度に、現行計画が終了することから、これまでの取り組み状況や課題を把握、分析するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大による国民生活・スポーツ界の変化や様々な社会情勢の変化等を踏まえた国の「第3期スポーツ基本計画」の趣旨を踏まえ、市民の生活が大きく変化する中でも市民が健康で心豊かに暮らせる生涯スポーツ社会の実現に向け「第2次 常陸大宮市スポーツ推進計画」を策定します。



ボール遊び体験教室

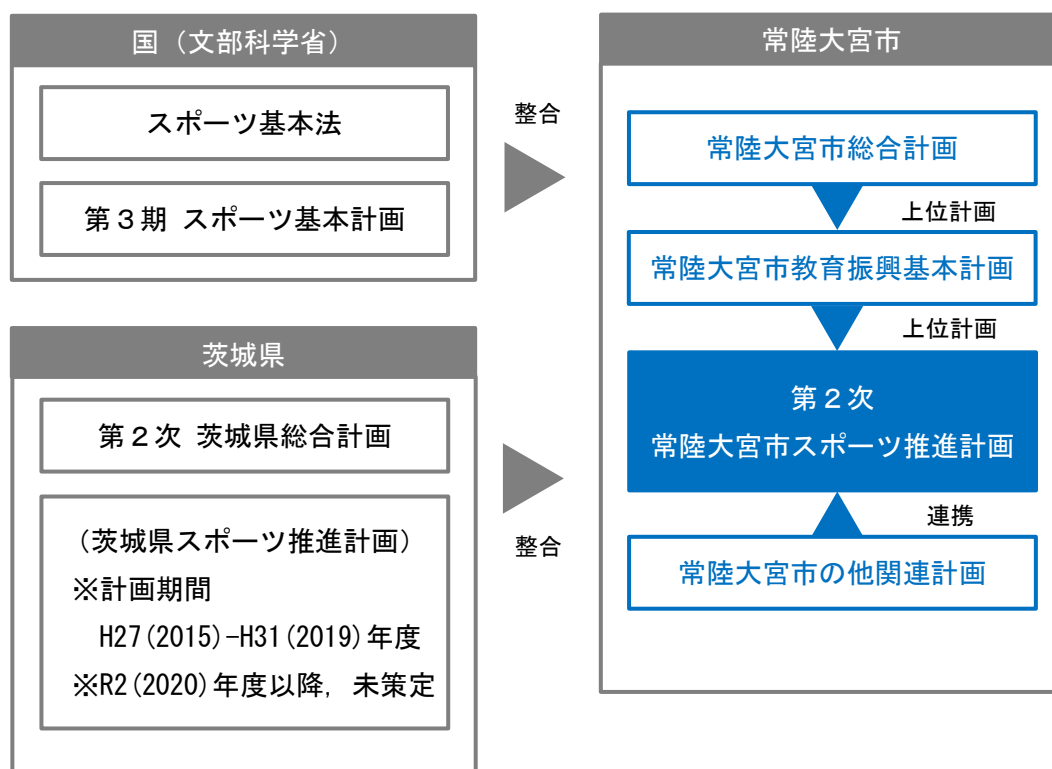


ヨガ教室

2. 計画の位置付け

- ・本計画は、本市の上位計画である「常陸大宮市総合計画」や「常陸大宮市教育振興基本計画」の内容を踏まえ、他の分野別計画と連携するとともに、国の「スポーツ基本法」「第3期 スポーツ基本計画」や「第2次 茨城県総合計画」等との整合性を図りながら、スポーツ振興施策を総合的に推進するための指針として位置付けます。

■ 本計画の位置付け



3. 計画の期間

- ・本計画の期間を、令和5年（2023年）度から令和9年（2027年）度の5年間とします。ただし、社会環境の変化等に合わせ、必要に応じて計画の見直しを行います。

4. 計画における「スポーツ」の定義

- ・本計画における「スポーツ」の定義は、野球やサッカーのような勝敗を争う競技スポーツだけではなく、健康づくりのためのウォーキングや軽い体操、体育祭、自然と親しむためのハイキングや各種レクリエーション活動を含め、スポーツをより身近なものとするため、目的を持った身体活動を幅広く「スポーツ」と捉えます。
- ・スポーツには、自らスポーツ活動を行う「するスポーツ」、試合の観戦や応援を通してスポーツに接する「みるスポーツ」、スポーツ活動等をサポートしていく「ささえるスポーツ」という関わり方があり、本計画では、これらの関わり方も「スポーツ」として捉えます。



スポーツフェスティバル
(ノルディックウォーキング)



スキルアップレッスン
(ゴルフ)

第2章

計画策定の背景

第2章 計画策定の背景

1. 国、茨城県の動向

(1) 国の動向

- ・国においては、平成23年(2011年)6月、スポーツ施策の根幹をなす「スポーツ基本法」を公布し、それに基づき、平成24年(2012年)3月に「スポーツ基本計画」が策定されました。法においては、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であるとされ、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現等を目的として、「国民が生涯にわたりあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ自律的にその適性及び健康状態に応じて行うことができるようにすること」を基本理念としています。
- ・令和4年(2022年)3月に、「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。同計画では、「第2期スポーツ基本計画」において掲げられた“①スポーツ「人生」が変わる”“スポーツで「社会」を変える”“スポーツで「世界」とつながる”“スポーツで「未来」を創る”という4つの中長期的な基本方針を踏襲しつつ、スポーツを取り巻く環境や社会状況の移り変わりとともに基本方針の指す内容や実現するための手立てが大きく変化したことから、次の新たな3つの視点を取り入れることとしました。

①「つくる / はぐくむ」

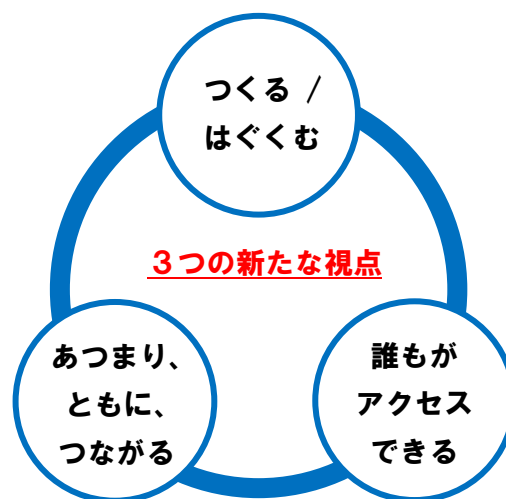
- 社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。

②「あつまり、ともに、つながる」

- 様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、課題の対応や活動の実施を図る。

③「誰もがアクセスできる」

- 性別や年齢、障がい、経済・地域事業等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないように社会の実現や機運の醸成を図る。



・「第3期スポーツ基本計画」では、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策として12項目を掲げています。

- ①多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ②スポーツ界におけるDXの推進
- ③国際競技力の向上
- ④スポーツの国際交流・協力
- ⑤スポーツによる健康増進
- ⑥スポーツの成長産業化
- ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり
- ⑧スポーツを通じた共生社会の実現
- ⑨担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- ⑩スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
- ⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- ⑫スポーツ・インテグリティの確保



サイクリング教室



常陸大宮駅伝大会（中・高・一般の部）

（2）茨城県の動向

・茨城県では、国の「スポーツ基本計画」を参酌し、平成27年3月に「茨城県スポーツ推進計画」を策定し、「活力と生きがいのある生涯スポーツ社会の形成」を目指し、次の4つの柱を掲げました。

- ①学校における子供の体育・スポーツの充実
- ②ライフステージに応じた県民の運動やスポーツ活動の推進
- ③国内外で活躍する本県選手の育成と強化
- ④スポーツ環境の整備と充実

・茨城県では、「茨城県スポーツ推進計画」の計画期間（平成27年(2015年)度～平成31年(2019年)度）終了後、新たなスポーツ推進計画は策定していませんが、「第2次茨城県総合計画」でスポーツに係る取り組みを示しています。

- ・令和4年（2022年）に策定された「第2次茨城県総合計画」では、基本理念として「活力があり、県民が日本一幸せな県」を掲げ、スポーツに係る主な取り組みとして次の5つの取り組みを計画しています。
 - ①国内外で活躍するトップアスリートを本県から輩出するため、ジュニア世代に重点を置いた本県選手の発掘・育成・強化に取り組みます。
 - ②スポーツ振興の一環として見るスポーツへの県民の参加を促進するため、プロスポーツクラブや関係団体等と連携して地域イベントの開催等を推進します。
 - ③生涯スポーツの振興のため、地域スポーツにおける指導者の資質向上や総合型地域スポーツクラブ等の活性化を支援します。
 - ④県民がスポーツに親しみ、充実した余暇を楽しむことができるよう、都市公園の魅力向上を図るとともに、県営体育施設の整備を推進します。
 - ⑤新しい生活様式においても、県民が集い、多様な生活を楽しむことができるよう、本県の地域資源であるフード、音楽、スポーツ、アウトドアなどを活かした大規模な大会、イベント、お祭りなどの開催、実施環境の整備を通じ、遊びある楽しい生活スタイルの創出に取り組みます。



小学生スケート教室



近郊中学校スポーツ大会
(サッカー)

2. 社会情勢の変化とスポーツとの関係 ～with コロナ時代の中で～

- ・令和2年（2020年）から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、経済活動に甚大な影響を及ぼしただけではなく、人々の行動・生活様式を大きく変化させました。コロナ感染症の感染を防止するために人々は外出を自粛し、人と人との直接的な接触を避ける傾向が強まり、人々の“からだ”と“こころ”の両面に深刻な影響を与えています。
- ・こうしたwith コロナ時代における人々の行動・生活様式の変化を踏まえ、スポーツや人と人とのコミュニケーションを通じて、人々が心身ともに健康的な生活を送れるように、地域の関係者等が一体となって新たな知見を取り入れながら必要な取り組みを進めていく必要があります。

（1）コロナ禍における子供のスポーツ

- ・以前より、子供の体力低下が、社会問題の一つとなっています。この要因としては、学校外の学習活動、携帯端末での室内遊び時間等の増加による屋外活動やスポーツ活動の減少が考えられます。加えて、子供が安心して遊べる場、少子化等による仲間の減少等が考えられます。
- ・こうした子供の体力低下が社会問題となる中、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校施設や公共・民間スポーツ施設の利用が制限され、子供たちは自宅やその周辺、利用制限がない公園でスポーツを実施するようになりました。こうした状況になったことで、気軽にスポーツを楽しむ機会が減少し、子供の心身の健康状態への悪影響が懸念されています。
- ・WHO（世界保健機関）では、子供の身体活動に関して、毎日60分以上の中高強度の身体活動（軽く息が弾む程度以上のもの）を推奨しており、子供の健康的な成長・発達、体力の向上、将来にわたっての疾病リスクの低下、基本的動作スキルや社会性の習得等に向け、地域においてスポーツの魅力・楽しさを子供たちが実感できる場を提供しながら、生涯にわたってスポーツに親しんでいく意欲や習慣を育んでいく必要があります。

（2）健康づくりとコロナ禍

- ・昨今、健康に対する人々の意識は、特定保健用食品の市場規模が10年間で倍増したり、喫煙率が年々減少するなど、年々高まりつつある状況でした。こうした状況の中、新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の健康への意識を、免疫力の向上や病気予防等の観点から、さらに高める結果となりました。
- ・しかしながら、新型コロナウイルスの感染を防止するために外出を自粛する傾向が高まったため、運動不足、ストレスの増大、医療機関・健診の受診控え等によって、心身に悪影響をきたす「健康二次被害」が懸念されています。

- ・生涯にわたり心身の健康を保持増進していくためには、適度な運動、適切な栄養管理、十分な睡眠など、生活に直接的に関わるものから、豊かな自然や芸術の鑑賞など生活の質を高める間接的な関わりのもので、様々な要因が関係します。健康に関する正しい知識・理解を持つとともに、健康にとって必要なことを実践していくことを習慣付けることが大切です。

(3) 高齢者とコロナ禍

- ・コロナ禍以前と比較し、運動をする時間が減少したと感じる高齢者が多くなりました。運動不足により、健康状態や身体機能低下、感染による健康状態の悪化を不安に思う高齢者が多いものの、運動をしないことによる健康状態や身体機能へのリスクを認識しつつも、感染の不安等から、運動や外出活動を控える傾向があります。
- ・超高齢社会を迎え、仕事や子育てを終えた60歳以上のセカンドライフの余暇時間をいかに有効に活用するかが、生きがいつくりの観点から、重要になっています。とりわけ、スポーツはその活動を通じて健康の保持増進に寄与するばかりではなく、地域における仲間づくりといった効果も期待できることから、高齢者が安心してスポーツに取り組むための環境や機会づくりを地域の関係者等が一体となって進めていく必要があります。

(4) 障がい者とコロナ禍

- ・スポーツ基本法では、第2条の基本理念に「障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障がいの種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」と明記されており、障がい者スポーツの推進が、国のスポーツ振興の重要な政策のひとつとして位置付けられています。
- ・国内では、平成25年(2013年)に東京2020パラリンピック競技会の開催決定後、スポーツ庁を中心に全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等で、パラリンピックに関する各種プログラムが実施されたり、同大会をテーマとしたテレビ番組が数多く制作、放映されたりするなど、多くの人々の意識に影響を与えました。
- ・こうした健常者と障がい者の共存と多様性が尊重される気運が高まる中で、令和2年(2020年)に新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの障がい者が感染予防のために外出を控えるようになり、運動不足や各種大会が中止され体力と身体機能の低下が懸念されています。
- ・計画期間が平成29年(2017年)度から令和3年(2021年)度である第2期スポーツ基本計画において、「障がい者の週1回以上のスポーツ実施率を成人では40%程度(若年期(7~19歳)では50%程度)、週3回以上を成人では20%程度となることを目指す」との目標を掲げていましたが、最終年度である令和3年(2021年)度は、週1回以上の成人のスポーツ実施率は31.0%(若年期は41.8%)、週3回以上

の成人のスポーツ実施率は16.5%にとどまり、コロナ禍の影響もあり目標には届きませんでした。

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、屋内及び屋外施設ともに利用休止となる期間が発生し、予定していた事業の多くが中止となる時期が一定期間ありましたが、各種利用制限が解除され実施可能な事業については、障がい者スポーツ団体、地域の関係者などが協力し、障がいのある人が安全にスポーツに親しめるような障がい者向けの教室が開催されるようになりました。

(5) 地域コミュニティとコロナ禍

- ・国内では、少子高齢化が進み、将来の労働人口減少に伴う経済の停滞が懸念されています。とくに地方では、高齢化や人口減少が深刻な問題となっており、地域の活力にも大きな影響を与えています。こうした状況の中で、地域の活性化施策のひとつとして、スポーツの力を利用した各種取り組みが行われています。
- ・しかし、令和2年（2020年）から始まった新型コロナウイルスの感染拡大以降、総合型地域スポーツクラブ等の地域のスポーツの活動は低調傾向にあり、結果としてスポーツを通じた地域コミュニティの減衰等、地域社会の絆にも大きな影を落としています。こうした状況の中、地域住民の心身の健康を維持するために運動・スポーツの必要性が再認識され、コロナ禍前のように地域住民が主体的に運動・スポーツに取り組むようになるためには、安心安全な「場」の提供が必要であるとの認識のもと、「新しい生活様式」に対応した、安心安全な運動・スポーツの機会を地域住民に提供できるよう、地域のスポーツ環境の基盤強化に係る取り組みが、スポーツ庁、地方公共団体、スポーツ関連団体等により行われるようになりました。



グラウンドゴルフ体験会



オリパラスポーツフェスティバル
(ブラインドサッカー)

3. 市民アンケート調査結果概要 ※詳細は、P. 55 以降に記載しています

(1) 実施概要

【調査目的】

- ・「常陸大宮市スポーツ推進計画」が、令和4年（2022年）度に最終年度を迎えることから、市民のスポーツに関わる実施状況や希望、意向等を把握し、今後のスポーツ推進にあたっての参考とするとともに、次期計画を策定するための基礎資料とするため、次の通りアンケート調査を実施しました。

【調査対象者】

- ・18歳以上の市民で、無作為に抽出した1,000人

【調査手法】

- ・アンケート郵送、返送による調査 ※インターネットによる回答を併用した。

【実施時期】

- ・令和4年（2022年）10月

【回答者数】

- ・371人（回答率37.1%）

【主なアンケート項目】

- ・回答者属性（年齢、性別、居住地域、職業）
- ・自身の健康状態・生活習慣
- ・スポーツへの関心度
- ・過去1年間のスポーツ実施状況
- ・今後のスポーツ活動実施への意向
- ・市内で開催するスポーツ大会への要望
- ・スポーツ情報の入手手段・要望
- ・市内のスポーツ推進に係る活動の認知度
- ・スポーツに関するボランティア活動への参加意向
- ・市内スポーツ施設の利用状況・要望
- ・スポーツを普及させるために必要なこと

(2) アンケート調査結果 (概要)

[自身の健康状態・生活習慣]

問5 最近「健康」だと感じていますか？ (回答は、1つ)

- ・「どちらかといえば健康である」と答えた人が、65.8%と最も多くなっています。
- ・約2割の人が、自分が健康だと感じていません。
(「どちらかといえば健康ではない (17.3%)」 + 「健康ではない (6.2%)」)。

問6 「自分の体力」をどのように感じていますか？ (回答は、1つ)

- ・自分の体力を「普通」と答えた人が、43.9%と最も多くなっています。
- ・約3割の人が、体力に不安を感じています。
(「どちらかといえば体力に不安がある (24.0%)」
+ 「体力に不安がある (11.1%)」)。

問7 「運動不足」を感じていますか？ (回答は、1つ)

- ・約8割の人が、運動不足であると感じています。
(「大いに感じる (35.6%)」 + 「ある程度感じる (46.4%)」)

問8 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、生活様式にどのような変化がありましたか？ (回答は、6つまで)

- ・「自宅にいる時間が増えた」と答えた人が、64.9%と最も多くなっています。
- ・「スポーツを直接観戦する機会が減った (23.2%)」「屋外でのスポーツの機会が減った (21.3%)」「複数人で行うスポーツを避けるようになった (18.5%)」については、それぞれ約2割の方が回答しており、コロナ禍の影響でスポーツに触れる機会が減少したと多くの人を感じています。

【スポーツの関心度】

問9 自分で行うスポーツ「するスポーツ」に関心がありますか？
(回答は、1つ)

- ・約6割の人が、「するスポーツ」に関心を持っています。
(「大いにある (19.1%)」 + 「まあまあある (42.6%)」)

問11 ボランティア等で競技運営に参加する「かかわるスポーツ」に関心がありますか？ (回答は、1つ)

- ・約7割の人が、「かかわるスポーツ」への関心が希薄です。
(「ほとんどない (43.7%)」 + 「全くない (26.1%)」)
- ・「するスポーツ」、「見るスポーツ」への関心が高い人が多い一方で、「かかわるスポーツ」への関心が高い人は比較的少数となります。

【過去1年間のスポーツ実施状況】

問12 過去1年間にどれくらいスポーツをしましたか？
(学校の授業以外) (回答は、1つ)

- ・約3割の人が、週に1回以上スポーツをしています。
(「週に4回以上 (5.7%)」 + 「週に2～3回 (13.7%)」 + 「週に1回 (11.6%)」)。
- ・一方で、約4割の人が、「まったくしなかった (37.7%)」と回答しています。

問14 「どのような理由で」それらのスポーツをしましたか？
(回答は、3つまで) (過去1年間でスポーツを実施した方のみ回答)

- ・スポーツをする理由としては、「健康、体力づくりのため」が、52.3%と最も多くなっています。
- ・その他の理由としては、「友人、仲間との交流として (43.6%)」「楽しみ、気晴らしとして (42.7%)」「運動不足を感じているから (40.8%)」といった理由が多くなっています。

問 15 スポーツを「どのような形態」で行っていますか？

(回答は、3つまで) (過去1年間でスポーツを実施した方のみ回答)

- ・「どこにも属さず、個人で行っている」が、51.9%と最も多くなっています。
- ・次いで、「どこにも属さず、友人や仲間とおこなっている」が、32.2%となり、特定のサークルやクラブに所属せず、個人や友人とスポーツをしている人が多い傾向が強く見られます。

問 16 スポーツを「行っている場所」はどこですか？(回答は実施回数の多い順

から3つまで) (過去1年間でスポーツを実施した方のみ回答)

- ・最も多いのは「公園(道路等を含む)など屋外(39.7%)」で、次いで「自宅(36.4%)」が多くなっています。

問 19 スポーツをしなかったのはどのような理由ですか？(回答は、3つまで)

(過去1年間でスポーツをしなかった方のみ回答)

- ・最も多いのは「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから(38.2%)」で、次いで「機会がなかったから(28.2%)」「特に理由はない(27.5%)」「年をとったから(27.5%)」が多くなっています。
- ・約1割の人が、「コロナウイルスの影響があったから(13.7%)」と回答しています。

【今後のスポーツ活動実施への意向】

問 20 引き続き、またはスポーツ活動を行いたいですか？(回答は、1つ)

- ・約7割の人が、今後スポーツ活動をしたいと考えています。
(「スポーツ活動をしたい(48.2%)」+「コロナ禍が終息すれば活動したい(21.0%)」)

【スポーツ情報の入手手段・要望等】

問 25 常陸大宮市のスポーツ情報に関して、どのような情報の充実を望んでいますか？（回答は、3つまで）

- ・最も多いのは「健康や体力づくりに関する情報（45.8%）」で、次いで「スポーツ施設の利用案内（44.1%）」が多くなっています。

【市内のスポーツ推進に係る活動の認知度】

問 26 「総合型地域スポーツクラブ」をご存知ですか？（回答は、1つ）

- ・約6割の人が「知らない（63.1%）」と回答しており、認知度は高くありません。

問 28 常陸大宮市では、生涯スポーツの普及・推進を図るため、スポーツ推進委員が指導や助言を行っています。あなたは、スポーツ推進委員をご存知ですか？（回答は、1つ）

- ・約7割の人が「知らない（66.6%）」と回答しており、認知度は高くありません。

【スポーツに関するボランティア活動への参加意向】

問 29 地域の市民体育祭のお手伝いやスポーツ少年団のお世話など各種スポーツ大会やイベントにおいて、過去1年間にボランティアとして、活動されたことがありますか？（回答は、1つ）

- ・過去1年間にボランティアとして「活動したことがある（9.6%）」人は、約1割となっています。

【市内スポーツ施設の利用状況・要望】

問 32 市内にある公共スポーツ施設を利用したことがありますか？
（回答は、1つ）

- ・市内公共スポーツ施設を「利用したことがある」人が46.5%、「利用したことがない」人が53.5%となっています。

問 33 市内の公共スポーツ施設に満足していますか？

(回答は、1つ)(利用者のみ回答)

- ・約9割の人が、市内公共スポーツ施設への満足度を高く評価しています。
(「満足している(24.2%)」+「やや満足している(66.1%)」)

問 34 市内の公共スポーツ施設を利用しない(できない)理由は何ですか？

(回答は、2つまで)(未利用者のみ回答)

- ・市内公共スポーツ施設を利用しない理由としては、「利用する機会がない(スポーツはしない)」が、64.3%と最も多くなっています。
- ・次いで、「手続きが面倒(10.4%)」「施設まで遠い・交通手段が不便(8.2%)」といった理由が、比較的多く挙げられています。

問 35 常陸大宮市の現状から、今後特に整備・充実(修繕や増設)してほしい施設・設備はどのようなものですか？(回答は、3つまで)

- ・市内のスポーツ施設や設備の中で、最も整備・充実の要望が多いのは「多目的運動広場(27.0%)」で、次いで「市民プール(16.6%)」、「体育館(14.1%)」が多くなっています。

問 36 常陸大宮市の施設に求めることはありますか？(回答は、3つまで)

- ・最も多いのは「身近なところで利用できる施設の新設(28.8%)」で、次いで「利用手続きの簡略化(26.4%)」が多くなっています。

[スポーツを普及させるために必要なこと]

問 41 常陸大宮市に対して、スポーツや運動をもっと普及させるために今後どのようなことに力を入れることを望みますか？(回答は、5つまで)

- ・「年齢層にあったスポーツの開発・普及」が、47.6%と最も多くなっています。
- ・次いで、「初心者向けスポーツ教室の充実(29.7%)」「子供の体力向上に関する事業や学校運動部活動の充実(22.4%)」「様々なスポーツイベントの開催(21.3%)」といった回答が挙げられています。

(3) 市民のスポーツに係る状況・意向、課題整理

- ・「市民のスポーツ活動に関するアンケート調査」結果に基づき、市民のスポーツに係る状況・意向や課題を「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の観点から整理しました。

[するスポーツ]

市民の 状況 意向	<ul style="list-style-type: none"> ・約3割の市民が、体力に不安を感じている。 ・約8割の市民が、運動不足を感じている。 ・市民の多くが、コロナ禍の影響でスポーツに触れる機会が減少している。 ・約3割の市民が週1回スポーツをしているが、約4割の市民は年間を通じてスポーツをまったく行っていない。 ・約5割の市民が、個人でスポーツを行っている。 ・約7割の市民が、今後、スポーツを実施したいと考えている。 ・多目的運動広場、市民プール、体育館の施設充実を望む声が多い。 ・健康や体づくりに関する情報やスポーツ施設の利用案内の充実を望む声が多い。 ・約6割の市民が、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）を知らない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・約4割の市民は年間を通じてスポーツをまったく行っておらず、スポーツを行うきっかけづくりを、感染対策等をしっかりと行いながら、進めていく必要がある。 ・スポーツに関する情報を、市民に効果的に伝えていく必要がある。 ・市民のニーズに合わせた、施設整備を行う必要がある。 ・市民一人ひとりがスポーツ文化を自分たちの手で育て、地域に根付かせていくためにも、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）の告知・支援を強化していく必要がある。



キックボクシング教室



スポーツフェスティバル（クライミング）

〔みるスポーツ〕

市民の 状況 意向	<ul style="list-style-type: none"> ・約7割の市民が「見るスポーツ」に関心がある。 ・「野球」「サッカー」「バレーボール・バスケットボール」「相撲」「ゴルフ」等を実際に観戦することを希望している。 ・約7割の市民が、市内で国際・全国レベルのスポーツ大会を開催することについて、肯定的に考えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・トップレベルのスポーツに接する機会の充実に向けて、新型コロナウイルス感染予防を適切に行いながら、プロスポーツイベントや大規模な大会などの開催・誘致を進めることが必要である。

〔ささえるスポーツ〕

市民の 状況 意向	<ul style="list-style-type: none"> ・過去1年間にスポーツにかかわるボランティア活動をした市民は、約1割であるが、過去1年間にスポーツにかかわるボランティア活動をしていない市民のうち約2割の市民は、今後ボランティア活動をしたいと考えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興に向けて、スポーツボランティアの確保・育成・資質の向上を図るとともに、地域で様々な活動をされている人材を有効に活用していくことが必要である。



アストロプラネッツ公式戦観戦



旧大場小学校
(ひたまる25活動拠点)整備

4. 前回計画実績・評価 ※詳細は、P. 55 以降に記載しています

- ・平成 30 年（2018 年）に策定した「常陸大宮市スポーツ推進計画」では、同計画の達成度を計ることを目的として、計画の最終年度である令和 4 年（2022 年）度における 4 つの指標に係る目標値を設定しました。
- ・令和 2 年（2020 年）から新型コロナウイルスの感染拡大が進み、国、地方公共団体等による活動制限が実施され、スポーツに係る様々な取り組み、イベントが中止・延期されるとともに人々の行動・生活様式が大幅に変化したことから、同計画で設定した目標を達成することが出来ませんでした。
- ・しかしながら、「スポーツの実施状況（成人の週 1 回以上のスポーツ実施率）」「スポーツ関連団体への参加」「スポーツリーダーバンク登録者」の令和 4 年（2022 年）度の実績は、コロナ禍の厳しい状況の中、計画の最終年度の目標値には及ばなかったものの平成 29 年（2017 年）度の実績を上回ることが出来ました。

〔スポーツの実施状況〕

指標	平成 29 年度 (2017 年度) 実績値	令和 4 年度 (2022 年度) 目標値	令和 4 年度 (2022 年度) 実績値
・成人の週 1 回以上の スポーツ実施率	29.2%	38.0%	31.6%

〔スポーツ関連団体への参加〕

指標	平成 29 年度 (2017 年度) 実績値	令和 4 年度 (2022 年度) 目標値	令和 4 年度 (2022 年度) 実績値
・何らかの団体・組織に加入して スポーツを行っている人の割合	48.2%	55.0%	53.0%

〔スポーツリーダーバンク登録者〕

指標	平成 29 年度 (2017 年度) 実績値	令和 4 年度 (2022 年度) 目標値	令和 4 年度 (2022 年度) 実績値
・茨城県スポーツリーダーバンク 登録者数（常陸大宮市内）	4 種 8 人	15 種 19 人	14 種 16 人

〔ボランティア参画度〕

指標	平成 29 年度 (2017 年度) 実績値	令和 4 年度 (2022 年度) 目標値	令和 4 年度 (2022 年度) 実績値
・年 1 回以上スポーツボランティアとして参加した人の割合	11.6%	12.0%	9.4%

第3章

計画の基本的方向

第3章 計画の基本的方向

1. 基本理念

- ・国の「スポーツ基本法」の精神や計画策定の趣旨、スポーツに関する現状と課題を踏まえ、全ての市民が、体力や年齢、適性や健康状態、興味や目的に応じて、スポーツに親しむことができるよう、前計画から引き継ぐべき基本的事項として「**だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現**」を基本理念とします。

2. 基本方針

- ・国の「スポーツ基本法」の他、新型コロナウイルス感染症の拡大や国民生活・スポーツ界の変化等、様々な社会情勢の変化を踏まえた国の「第3期スポーツ基本計画」「第2次茨城県総合計画」の趣旨や本市の上位計画である「常陸大宮市総合計画」「常陸大宮市教育振興基本計画」等の趣旨を踏まえ、コロナ禍等市民生活が大きく変化する中でも市民が健康で心豊かに暮らせる生涯スポーツ社会の実現に向け、次の4つの基本方針を基軸としたスポーツ施策を計画的に進めていきます。

(1) 生涯スポーツの推進・普及

- ・常陸大宮市総合計画の「ひたちおおみや未来創造ビジョン〈基本構想〉」では、市民が市に愛着と誇りを持ち、将来も住み続けたいと思うまちとして発展、維持していくためには、未来を担う次世代の子どもたちが健やかに成長できるまちづくりを進める必要があるとしています。そして、その子どもたちが大人になり、親になり、社会の中心として活躍する時期を概ね30年後である令和32年（2050年）頃とし、その頃の市の姿を見据えたまちづくりを進めていくものとしています。これらの趣旨を踏まえ、長期的な視点をもってスポーツ推進施策を総合的に推進します。
- ・市民一人ひとりのスポーツニーズに対応した多様なスポーツ教室やイベントを企画し、生涯スポーツの推進を図ります。
- ・総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）の活動支援および積極的な広報活動を行い、市民誰もがスポーツに親しめる環境づくりを推進します。

(2) スポーツ団体の育成・指導体制の充実

- ・スポーツ活動を積極的に推進するため、一般財団法人常陸大宮市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）等の関係機関と連携を図りながら、各種スポーツ関係団体の育成強化に努めます。
- ・地域スポーツの担い手の育成に向け、スポーツ推進委員の研修の充実や各種スポーツ指導者の養成と活動を支援し、指導体制の充実・強化を図ります。
- ・各種大会で優秀な成績を収めた選手の関東・全国大会への派遣を支援します。

(3) スポーツ環境の整備・充実

- 多くの市民が有効かつ効率的に利用し、市民の健康・体力づくりに活かせるように、各スポーツ施設の整備充実と学校体育施設の利用促進を図ります。
- 老朽化が目立つ施設は、修繕計画を立て工事を実施し、利用率が低い施設については、「常陸大宮市公共施設等総合管理計画」に基づき、継続利用・廃止の検討を進めます。

(4) スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

- スポーツに対する関心の高まりや地域間交流の深化を受け、いきいき茨城ゆめ国体や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを活かし、オリンピックやパラリンピアンといったトップアスリートの招聘を通して、市民にとって魅力的なスポーツイベントを開催するなど、人と人との交流を推進するとともに、市民がスポーツに関心を持ち、積極的に関わることができる事業を展開します。
- スポーツを通じた「常陸大宮」のPRや、市の歴史文化とスポーツを融合させたイベントの開催などにより、分野を越えての参加・集客を促し、スポーツの裾野の拡がりを目指します。



ドリームベースボール



AED 講習会



大宮運動公園 全体



オリパラスポーツフェスティバル
(パラオブルーサポーター)

3. 施策の体系

・ 4つの基本方針に基づき、計 36 の施策を定めました。

(1) 生涯スポーツの推進・普及

基本方針	1. 生涯スポーツの推進・普及	通番
大施策	(1) 子供のスポーツ	
	①地域でのスポーツ活動	1 - (1) - ① 1
	②家庭、地域への啓発	1 - (1) - ② 2
	③幼稚園・保育園並びに学校体育での取り組みへの支援	1 - (1) - ③ 3
	④手軽に楽しめるスポーツ実施機会の充実	1 - (1) - ④ 4
大施策	(2) 成人のスポーツ	
	①スポーツプログラムの研究・創出・PR	1 - (2) - ① 5
	②スポーツイベントへの支援	1 - (2) - ② 6
	③運動・スポーツを楽しむ機会の提供	1 - (2) - ③ 7
	④職場における手軽な運動の推奨	1 - (2) - ④ 8
大施策	(3) 高齢者のスポーツ	
	①ニュースポーツ等の普及	1 - (3) - ① 9
	②身体活動の機会の増加・啓発支援	1 - (3) - ② 10
	③スポーツ文化交流支援	1 - (3) - ③ 11
	④主体的なスポーツ活動への勧誘	1 - (3) - ④ 12
大施策	(4) 障がい者の運動やスポーツ	
	①交流できるスポーツ環境の整備	1 - (4) - ① 13
	②スポーツ実践活動の取り組みへの支援	1 - (4) - ② 14
	③コーディネーター養成の推進	1 - (4) - ③ 15
	④情報発信の推進	1 - (4) - ④ 16

(2) スポーツ団体の育成・指導体制の充実

基本方針	2. スポーツ団体の育成・指導体制の充実	通番
大施策	(1) スポーツ団体等の活動支援	
	①スポーツ団体等の活性化支援	2 - (1) - ① 17
	②総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）の活性化支援	2 - (1) - ② 18
	③スポーツ推進委員活動の強化	2 - (1) - ③ 19
	④行政関係部門の連携の強化・充実	2 - (1) - ④ 20
大施策	(2) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援	
	①運動部活動指導体制の充実	2 - (2) - ① 21
	②指導者の育成・活用	2 - (2) - ② 22
	③研修機会の充実	2 - (2) - ③ 23
大施策	(3) 競技スポーツの支援	
	①スポーツ優秀選手の支援	2 - (3) - ① 24
	②スポーツ大会の開催の検討	2 - (3) - ② 25
	③スポーツ教室等の開催・支援	2 - (3) - ③ 26

(3) スポーツ環境の整備・充実

基本方針	3. スポーツ環境の整備・充実	通番
大施策	(1) 学校体育施設開放事業	
	① 学校体育施設利用の充実	3-(1)-① 27
大施策	(2) 公共スポーツ施設等の整備	
	① 施設の整備	3-(2)-① 28
	② 施設の再編	3-(2)-② 29
	③ 施設のPR活動の検討	3-(2)-③ 30

(4) スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

基本方針	4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進	通番
大施策	(1) スポーツ交流の充実・支援	
	① ニーズに対応したスポーツイベントの開催	4-(1)-① 31
	② スポーツボランティアの養成と活用	4-(1)-② 32
	③ スポーツを通じた交流事業の展開	4-(1)-③ 33
	④ 国際交流の推進	4-(1)-④ 34
大施策	(2) スポーツと他の分野との融合	
	① スポーツを通じた「常陸大宮」のPR推進	4-(2)-① 35
	② 歴史文化とスポーツの融合の推進	4-(2)-② 36



スナッグゴルフ教室



水戸地区スポーツ推進委員研修会



西部総合公園 体育館



オリンピック・パラリンピアン
交流体験会

4. 数値目標

(1) 目標設定にあたって

- ・平成30年（2018年）に策定した「常陸大宮市スポーツ推進計画」では、同計画の達成度を計ることを目的として、計画の最終年度である令和4年（2022年）度における4つの指標に係る目標値を設定しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、同計画で設定した目標を達成することが出来ませんでした。
- ・前計画期間の取り組み状況や課題を踏まえつつ本計画で定めた施策を確実に実施していくために、計画の最終年度である令和9年（2027年）度における4つの指標に係る目標値を、新型コロナウイルスの感染状況等を勘案し次の通り設定しました。

基本方針① 生涯スポーツの推進・普及

〔スポーツの実施状況〕

指標	令和4年（2022年）度 実績値	令和9年（2027年）度 目標値
・成人の週1回以上の スポーツ実施率	31.6%	38.0%

基本方針② スポーツ団体の育成・指導体制の充実

〔スポーツ関連団体への参加〕

指標	令和4年（2022年）度 実績値	令和9年（2027年）度 目標値
・何らかの団体・組織に加入して スポーツを行っている人の割合	53.0%	55.0%

〔スポーツリーダーバンク登録者〕

指標	令和4年（2022年）度 実績値	令和9年（2027年）度 目標値
・茨城県スポーツリーダーバンク 登録者数（常陸大宮市内）	14種 16人	15種 19人

基本方針③ スポーツ環境の整備・充実

〔学校開放事業利用団体の状況〕

指標	令和4年(2022年)度 実績値	令和9年(2027年)度 目標値
・学校開放事業利用団体数	55 団体	70 団体

基本方針④ スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

〔ボランティア参画度〕

指標	令和4年(2022年)度 実績値	令和9年(2027年)度 目標値
・年1回以上スポーツボランティアとして参加した人の割合	9.4%	12.0%

第4章

施策の展開

第4章 施策の展開

1. 生涯スポーツの推進・普及

(1) 子供のスポーツ

〔現状と課題〕

- ・ 幼児期から小学生・中学生・高校生の時期においてスポーツは、生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培う重要な役割を果たすものです。しかしながら、近年、子供たちを取り巻く環境は、テレビゲームやスマートフォン等携帯機器の普及、少子化による仲間の減少など、日常生活や自然の中で身体を動かす機会が減少しており、これらの要因により体力・運動能力が低下していると考えられます。また、積極的に運動やスポーツ活動に取り組む子供とそうでない子供の二極化傾向があり、運動習慣が身に付いていない子供に対する支援の充実が課題となっています。こうしたことから、幼児期に運動に触れ合う機会を増やし、スポーツ活動に取り組む子供とそうでない子供の二極化されている現状の改善を図ることが重要になっています。
- ・ 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、茨城県の児童生徒は、体力合計点が、小学校第5学年の男子が全国第6位、女子が第4位、中学校第2学年の男子が第6位、女子は第3位と、茨城県は全国的に高い水準を維持しています。しかしながら、令和元年度の茨城県平均値と比較すると、コロナ禍による運動機会の減少、デジタル機器（スマートフォン、ゲーム機器等）の使用頻度の増加などから、児童生徒の体力の低下が見られました。特に、中学生男女、高校生男女の全学年は、得点合計が全国平均値を下回っている（※1）ことから、改善することが必要です。
- ・ 児童生徒の体力の維持・向上のため、感染症対策を十分に講じたうえで、学習活動を工夫しながら、可能な限り体力向上に向けた取り組みを実施していきます。
- ・ 中学校の部活動においては、専門的指導者の不足のために十分な指導が受けられない、あるいは部活動の種目数が少ないために生徒が望むスポーツを行えないなどの課題があり、中学校の部活動の見直しに係る動向を注視しながら、子供たちがスポーツに親しむための多種多様な機会を用意していきます。

※1 茨城県教育委員会（令和4年）「令和3年度 児童生徒の体力・運動能力調査報告書」より

〔施策の展開〕

①地域でのスポーツ活動の充実

- ・各種スポーツ教室を開催しスポーツに携わるきっかけを提供するとともに、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）や市スポーツ協会等、市内のスポーツ関連団体と連携を図りながら、スポーツに苦手意識のある子供でも、気軽に楽しく体づくりができる機会を提供します。

②家庭、地域への啓発

- ・体力低下の問題に限らず、子供の心身の健やかな発育におけるスポーツの意義について理解を促し、家庭、地域において子供が運動を習慣化し、明るく豊かな生活を送ることができるよう、啓発活動を行います。
- ・スポーツが人間形成に重要な役割を果たすことや、効果的なトレーニングの方法、バランスの良い食事・栄養と運動とのかかわりの大切さなどについて、情報提供や講習会の開催を推進します。

③幼稚園・保育所並びに学校体育での取り組みへの支援

- ・教員の指導力の向上や、地域の外部指導者活用等により、指導体制の充実を図ります。
- ・子供たちが「できる」楽しさを味わえる授業づくりなど、より良い運動習慣の形成のための方策を、積極的に支援していきます。
- ・1人1種目をやり遂げることに固執せず、多種多様な種目を体験する機会を設けるため、関係機関と連携を図り、体験型のスポーツイベントやスポーツ教室を開催します。
- ・県や関係団体と連携を図り、次世代を担うジュニア選手の発掘・育成を支援します。

④手軽に楽しめるスポーツ実施機会の充実

- ・放課後に地域の幼児、児童が気軽に集える学びと交流の場（「放課後児童クラブ」や「放課後子供教室」など）の確保や機会づくりを支援するとともに、関係各課にも協力を働きかけます。
- ・幼児期や児童期に、多様な遊びやスポーツを経験できるようなスポーツ教室の開催、環境づくりを進めます。
- ・総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）と連携を図り、子供と保護者・家族が、異年齢の子供や多世代の大人とともにスポーツに親しむことができる機会を充実させる取り組みを行います。

(2) 成人のスポーツ

〔現状と課題〕

- ・「市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査（※1）」では、週に1回以上スポーツを実施した人の割合は31.6%と前回調査29.2%を若干上回ったものの、茨城県平均50.4%（※2）（前回43.4%）、全国平均の56.4%（※3）（前回42.5%）を大きく下回っている結果が出ました。
- ・また、この1年間にスポーツを行わなかった人の割合は、38.5%（※4）と前回調査41.3%を若干下回ったものの、国の17.3%（※5）（前回32.9%）に比べ、スポーツをしない市民が多く存在していることが浮き彫りになりました。
- ・これら調査結果を踏まえ、スポーツ実施率の向上やスポーツ未実施者の割合を縮小するための取り組みを、アフターコロナを見据え実施していきます。

※1 ※4 常陸大宮市（令和4年）「市民のスポーツ活動に関する調査」より（巻末P.55に詳細を記載）

※2 茨城県（令和2年）『ネットリサーチ「生涯スポーツの振興」に関するアンケート結果報告書』より

※3 ※5 スポーツ庁（令和3年）「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より

〔施策の展開〕

① スポーツプログラムの研究・創出・PR

- ・スポーツを生涯にわたって継続できるように、仲間づくりをしながらできるスポーツやコロナ禍でも一人で活動でき、気軽に取り組むことのできるスポーツプログラムを研究・創出し、PRに努めます。

② スポーツイベントへの支援

- ・スポーツ推進委員と協力しながら、体育祭もしくはそれに替わるスポーツイベントや各種スポーツ教室等の内容を吟味、工夫し、地域住民の誰もが参加しやすい事業に取り組む等、スポーツを軸とした地域コミュニティの充実に努めます。

③ 運動・スポーツを楽しむ機会の提供

- ・仕事等で忙しく運動やスポーツをしていない人たちに対して、忙しい中でも体を動かすことの重要性や、日常生活の中で気軽にできる運動プログラム等の情報を提供します。
- ・病気・怪我のため運動やスポーツができていない人たちでも参加しやすい内容のプログラムを組んだスポーツ教室等の開催を推進します。
- ・スポーツや運動をするきっかけのない人たちに対して、各種団体（市スポーツ協会・スポーツ少年団等）、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）と連携を図り、スポーツや運動を楽しむ機会を提供します。

④職場における手軽な運動の推奨

- ・スポーツ庁では、朝や昼休みなどに体操・ストレッチをするなどの運動機会の提供や、階段の利用や徒歩・自転車通勤の奨励、あるいはスタンディングミーティングの実施など、スポーツ競技に限らず、社員の健康増進のためスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を「スポーツエールカンパニー」（英語名称：Sports Yell Company）として認定する制度を実施しています。こうしたことから、企業が行う従業員がスポーツに親しめる環境づくりについて、啓蒙、支援します。

（３）高齢者のスポーツ

〔現状と課題〕

- ・高齢者は、スポーツはしていなくても、農作業や家事等に従事し、日々体を動かしている方も多いと思われませんが、グラウンドゴルフ等のスポーツに親しむ高齢者が多くいるのも現状です。今後も運動やスポーツを問わず、体を動かす高齢者の数を増やすことが重要な課題です。
- ・高齢者が健康の保持増進のための運動習慣を身に付けられるよう、保健福祉部門と連携を図りつつ運動の機会の増加を推進し、また、生涯スポーツの場が高齢者にとって仲間との交流の場になることを目標にします。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、高齢者は外出機会が減少し体を動かすことが少なくなってきました。こうしたことから、高齢者が自宅でもできる運動を紹介、指導し、高齢者の体力や筋力の低下を予防していきます。

〔施策の展開〕

①ニュースポーツ等の普及

- ・ニュースポーツとは、昔からあるスポーツをベースにして、より安全に、より簡単に、より幅広い人が一緒に楽しめるようにと考え出された新しいスポーツです。年齢や体力、性別にかかわらず、あらゆる人がスポーツに親しむ機会を増やすことができることから、介護予防体操等とともに、積極的な普及に努めます。

②身体活動の機会の増加・啓発支援

- ・無理なく実施できるスポーツ・レクリエーションプログラムの活用・普及を図りつつ、施設入居者を含めた高齢者の身体活動の機会の増加について、啓発・広報・支援活動を行います。

③スポーツ文化交流支援

- ・ねんりんピックや高齢者が多く参加するスポーツイベントなど、スポーツ・文化活動を通じ交流を深められる事業への参加を支援していきます。

④主体的なスポーツ活動への勧誘

- ・高齢者クラブをはじめとする地域の高齢者自主グループ、あるいは民生委員に働きかけ、主体的に生涯スポーツに取り組むよう、高齢者への啓発や広報を進めていきます。

(4) 障がい者の運動やスポーツ

〔現状と課題〕

- ・平成 23 年 6 月に施行されたスポーツ基本法において、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」とであると定められました。
- ・また、障がい者のスポーツは、リハビリテーションの延長という考え方から、日常生活で楽しむレクリエーションや健康の維持・増進などを目的とした生涯スポーツや競技するスポーツへと変化してきました。
- ・国の第 2 期スポーツ基本計画において、「障がい者の週 1 回以上のスポーツ実施率を成人では 40%程度（若年期（7～19 歳。以下同じ。）では 50%程度）、週 3 回以上を成人では 20%程度となることを目指す」との目標を掲げていましたが、令和 3 年度「障がい者のスポーツ参加促進に関する調査研究」の結果（※1）では、週 1 回以上の成人のスポーツ実施率は 31.0%（若年期は 41.8%）、週 3 回以上の成人のスポーツ実施率は 16.5%となり、目標を下回る状況となっています。
- ・常陸大宮市においては、障がい者のスポーツは、保健福祉部門を中心に行っていますが、障がい者スポーツの環境（場所・指導者）は、十分でないことから、関係団体等と連携を図りながら、環境の整備に努めていきます。

※1 スポーツ庁（令和 4 年）『令和 3 年度「障がい者のスポーツ参加促進に関する調査研究」の調査結果（速報版）』

（https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00101.html）より

〔施策の展開〕

①交流できるスポーツ環境の整備

- ・公益財団法人日本パラスポーツ協会や、障がい者と健常者が分け隔てなく楽しみながら勝敗を競うことをテーマに新しいスポーツを考案している一般社団法人世界ゆるスポーツ協会など先進的な団体が発信する情報を参考にしながら、障がいのある人もない人もともにスポーツができる機会を提供し、障がいに関係なく一緒にスポーツを楽しみ交流できる環境をめざします。

②スポーツ実践活動の取り組みへの支援

- ・誰もが健康で豊かな生活が送れるよう、保健福祉部門と連携を図り日常的な運動・スポーツ種目や指導方法について検討します。また、全国障がい者スポーツ大会など全国レベルの大会に出場する競技者についても、その活動を支援します。

③コーディネーター養成の推進

- ・障がい者スポーツ推進のため、スポーツ推進委員等を中心に積極的に講習会、研修会への参加を促し、コーディネーターや指導員の発掘・育成に努めます。

④情報発信の推進

- ・スポーツの効用に関する情報発信や、障がいのある人が「いつ、どこで、どのようにして」できるかという具体的な情報発信・普及啓発を推進します。



スポーツフェスティバル
(サッカー)



ヨガティス体験教室



グラウンドゴルフ体験会



障がい者フライングディスク体験教室

2. スポーツ団体の育成・指導体制の充実

(1) スポーツ団体等の活動支援

〔現状と課題〕

- ・アンケートの調査結果では、チームやクラブに属さずに個人でスポーツを行っている人の割合が、52.1%（※1）と、前回調査 46.5%を上回っています。
- ・その一方で、スポーツを行った理由として「友人、仲間との交流として」が 32.4%（※2）と、前回調査 19.9%を大きく上回っています。
- ・こうした前回調査からの変化は、コロナ禍の影響で、少人数でのスポーツを志向する傾向が高まったことによると考えられますが、競技レベルの向上や、より効果的な健康推進を目指した場合、指導者の適切な指導が欠かせません。また、団体に属さずにウォーキング等の軽運動をしている人が多い状況であっても、同好の仲間とともに集まる機会の創出、あるいは新たな仲間を作る場としてのスポーツ団体の役割も無視できません。
- ・近年、メンバー構成や取り組む種目、競技レベルが限定されている既存の地域スポーツクラブに対して、新たな仲間づくりの場として多様な価値観の会員で構成され、「多世代」「多種目」「多志向」をテーマに掲げながら活動する「総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）」の役割が大きくなってきており、地道な努力によって会員数を着実に増やしています。しかし、認知度がまだまだ低いことと、子供や壮年男性の参加者が少ないことが課題となっています。
- ・地域・地区体育協会や各種目の競技団体等に対しては、市スポーツ協会を通じて補助金を交付し、活動を支援しています。

※1 ※2 常陸大宮市（令和4年）「市民のスポーツ活動に関する調査」より（巻末 P. 55 に詳細を記載）

〔施策の展開〕

① スポーツ団体等の活性化支援

- ・スポーツの普及・推進には、市スポーツ協会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）など市内のスポーツ団体が重要な役割を担っています。
- ・これまでの事業を更に充実させるとともに、自主的・主体的・継続的に活動しているスポーツ団体に対し支援を行い、個々のスポーツ団体の活性化を図りつつ、地域スポーツの活性化や運動・スポーツ人口の拡大等につなげます。

②総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）の活性化支援

- ・総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）は、完全学校週 5 日制時代における地域の児童・生徒のスポーツ活動の受け皿となるとともに、地域住民が主体となりながら地域の連帯意識の高揚、世代間の交流、地域社会の活性化・再生にも寄与するものです。誰もが行いたいスポーツを自由に選択でき、イベント等を含め様々な形でスポーツを楽しむことのできる身近な場となるようにします。
- ・こうした取り組みを支援するにあたっては「①自主的な運営」「②自主財源を主とする運営」「③総合型地域スポーツクラブとしての理念の共有」が促進されるようにします。
- ・運営体制については、多様な関係者が連携・協働するクラブになるよう、情報発信を行い、また、市民から広くバイタリティ・ホスピタリティ溢れる人材を登用し、クラブがより活性化するよう、活動を支援します。

③スポーツ推進委員活動の強化

- ・スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき市教育委員会から委嘱される非常勤の特別公務員です。従来の体育指導員のような実技指導だけではなく、各地区の住民と行政等をつなぐコーディネーター（啓発・調整・支援等）としての役割が期待されています。今後のスポーツ推進委員の活動は、潜在的なスポーツ需要者の参加を含めて、気軽に身近な、住民の生涯スポーツの発展の要となります。
- ・そのため、障がい者スポーツ指導員の資格取得を含め、必要な技能・能力の向上に資する研修等への参加及び活動の場の拡充を図り、今後もスポーツに関する指導、助言や地域住民と行政とのコーディネーター、スポーツ施策の重要な推進役として活躍できるよう活動の強化に努めます。

④行政関係部門の連携の強化・充実

- ・スポーツ推進と健康づくりは密接な関係にあります。今後のスポーツ推進においては、市民のスポーツ・運動の活性化と健康づくりに、保健福祉部門との連携体制の充実を図ります。
- ・また、スポーツ（例：サイクリング・ウォーキング等）と旅行・観光を組み合わせ、地方創生や地域経済の活性化に取り組む「スポーツ・ツーリズム」が近年着目されています。こうした新たなスポーツ形態への取り組みに関して、行政関係部門と連携を図っていきます。

(2) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援

【現状と課題】

- ・現在常陸大宮市では、14 種目 16 人が、茨城県スポーツリーダーバンクへ登録しています。
- ・競技種目ごとの指導者養成事業については、各個人での対応により、協会等公認スポーツ指導者等の資格を取得しています。
- ・新たな指導者養成とともに、茨城県スポーツリーダーバンク未登録者の掘り起こしや現在資格を取得している人の継続的な活動を維持できるようにすることが、課題となっています。

【施策の展開】

①運動部活動指導体制の充実

- ・スポーツ庁が取りまとめた「運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言」を踏まえ、関係者、関係団体と連携を図り、各学校及び保護者の希望を把握しながら、中学校の運動部活動のあり方について検討し、体制を整備します。
- ・スポーツを実施する子供が、不適切指導等により本人の希望しない理由等でスポーツから離れたたり、スポーツに親しむ機会を奪われたりすることがないように、スポーツ少年団や市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ（ひたまる 25）等と連携を図りながら、適切な指導が行われるようにします。
- ・スポーツ事故の防止に向けて、スポーツリスクマネジメントの考え方を導入し、安全・安心なスポーツ環境を提供していきます。

②指導者の育成・活用

- ・市民の多様化するスポーツニーズに応えるためにも、関係団体・機関と連携を図りながら、公認指導員等の資格取得や継続更新を支援することや、研修会や講習会への参加を推進するなど、指導者・スタッフの育成と継続活動の支援に努めます。
- ・また、茨城県スポーツリーダーバンクを活用するなどして市内の指導者の実態を把握するとともに、公認指導員等には、関係団体・機関と連携を図りながら、指導環境を整備していきます。

③研修機会の充実

- ・指導者研修会の開催や、国・県主催のスポーツ指導者養成講座への積極的な参加を促進することで、指導者の人材確保及び資質の向上を図ります。

(3) 競技スポーツの支援

〔現状と課題〕

- ・競技スポーツ支援補助金として、県予選を勝ち抜いて関東大会又は全国大会に出場する選手・団体に対して、経費の一部を補助する支援をしています。
- ・競技力向上のためにはジュニア期の選手の育成が重要であり、また、中学校の土日の部活動が地域に移行されること等から外部コーチ、スポーツ少年団や各関係団体の指導者の相互連携のもと、求められる指導者の確保・育成が必要とされています。

〔施策の展開〕

①スポーツ優秀選手の支援

- ・関東大会、全国大会等へ出場する選手・団体に対して交通費等の一部を補助する競技スポーツ支援補助金事業を継続するとともに、補助金を利用する市民を増やすため、広報活動を充実させます。
- ・また、競技力向上を図るため、指導者研修やコンディショニングなどの支援体制構築を検討していきます。
- ・全国大会で顕著な成績を収めた選手の表彰を行うとともに、その活動を広く広報していきます。

②スポーツ大会の開催の検討

- ・選手の競技力向上の動機づけとなるような、高い競技レベルの大会の開催を検討します。

③スポーツ教室等の開催・支援

- ・高いスポーツ技術に触れられる機会を提供し、オリンピック・パラリンピアンをはじめとするトップアスリートを招聘した教室・講演会等の積極的な開催、支援に努めます。



指導者クリニック



水戸地区スポーツ推進委員研修会

3. スポーツ環境の整備・充実

(1) 学校体育施設開放事業

〔現状と課題〕

- ・市民が身近な場所で気軽にスポーツを行うための場所として、スポーツ基本法及び関連する規則等に基づき、学校体育施設開放事業を行っています。対象は、本市に在住又は在勤する者 10 人以上で構成される団体に対し、主に平日夜間と土日昼間に、無料で屋内運動場等を提供しています。
- ・令和 3 年度は、高校 1 校、中学校 4 校、小学校 10 校において、55 団体の登録がありました。昨今の少子高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響もあり、施設を利用する団体は減少傾向にあります。

〔施策の展開〕

① 学校体育施設利用の充実

- ・スポーツ推進のため、また、より多くの市民が公平に制度を利用できるよう、学校及び利用団体と連絡調整を図り、利用方法等について検討していきます。
- ・施設の予約や鍵の管理等、公平性を担保しながらデジタル化に向けて検討します。

(2) 公共スポーツ施設等の整備

〔現状と課題〕

- ・現在、常陸大宮市の公共体育施設は、中核となる西部総合公園や大宮運動公園のほか、各地域に運動公園などがあります。
- ・西部総合公園は指定避難所、大宮運動公園については指定緊急避難場所に位置づけられていますが、老朽化が進行しています。これらの施設は、年間通じて利用者数も多く、今後も広く活用されることが考えられることから、大規模修繕を進めていきます。
- ・その他各地域の運動公園には、主に多目的グラウンドやテニスコートなどが整備されていますが、各施設とも老朽化により、修繕が必要な箇所が目立つ状況です。各施設の老朽化の進行度、利用率等を勘案しながら、優先順位をつけ、修繕や施設の改廃、適正配置の検討を進めていきます。
- ・そのほかに、廃校体育館を利用した社会体育施設が市内に 3 施設ありますが、これらも老朽化が著しく、今後の活用等について地域住民と協議を重ねながら検討していきます。

〔施策の展開〕

①施設の整備

- ・施設の老朽化に伴い、改修が必要となっている施設が多くなってきています。優先順位や緊急性・必要性等を考慮しながら、計画性をもって改修を進めていきます。
- ・DX（※1）の導入を検討し、利用者の利便性向上、施設の利用率向上、施設運営管理費の削減等を図っていきます。

※1 DX（デジタルトランスフォーメーション）は、データやデジタル技術を活用して、社会のニーズを基に、製品やサービスをはじめ、業務や組織などを変革することです。

②施設の再編

- ・利用率が低い施設については、「常陸大宮市公共施設等総合管理計画」に基づき、継続利用するか廃止するかの検討を進めます。

③施設のPR活動の検討

- ・施設の多面的な利用方法について検討するとともに、市内外に向けて企業版ふるさと納税の活用やSNS等での情報発信を含め、施設PRを進めていきます。



廃校施設を利用した長田体育館



西部総合公園テニスコート



老朽化した大宮運動公園
市民球場 スコアボード



美和運動公園 多目的グラウンド

4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

(1) スポーツ交流の充実・支援

〔現状と課題〕

- ・地域・地区体育協会においては、コミュニティスポーツの振興のために、体育祭や歩く会などの開催、ニュースポーツの普及など、スポーツ施策を展開してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年よりスポーツ活動が大きく制限され、スポーツを通じた人と人との「つながり」や「交流」の機会が減少してしまいました。
- ・スポーツする人、ささえる人の安心・安全に最大限の配慮を払いながら、アフターコロナを見据え、市民が参加しやすく、市民のニーズやライフスタイルに合った魅力ある交流の機会を創出していく必要があります。

〔施策の展開〕

① ニーズに対応したスポーツイベントの開催の支援

- ・国や地方公共団体が示す新型コロナウイルス感染拡大予防に係るガイドラインや日本スポーツ協会が制定したスポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラインを踏まえ、スポーツイベントを開催します。
- ・市民のニーズを反映した地域住民の誰もが参加しやすいスポーツ関連事業や地方では観戦する機会の少ないプロスポーツイベント等の開催について支援します。

② スポーツボランティアの養成と活用

- ・スポーツを支えることは、「するスポーツ」や「みるスポーツ」とともに、スポーツの楽しみ方の一つとなっているため、大会の運営を支えるスポーツボランティア育成に努めます。
- ・スポーツを「ささえる」スポーツボランティアの安全・安心にも配慮した形で、スポーツイベントの運営を行っていきます。
- ・さらに、市民が積極的にボランティアとして関わり合いを持ちたいと思えるよう、各イベントの内容を検討していきます。

③ スポーツを通じた交流事業の展開

- ・スポーツを通じた地方創生において、これまでの地域住民向けのインナー事業（スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防）に加え、地域外との交流を含めたアウトター事業（スポーツを活用した経済・社会の活性化）の実施が求められています。こうしたスポーツによる地域内外の人々の交流を促進し、健康まちづくりを実現していくためには、スポーツツーリズム等の更なる推進が必要であることから、地域内外の関係者と連携を図りながら事業を進めていきます。

- ・フレンドリータウン協定を締結している茨城アストロプラネッツや、ホームタウン協定を締結した水戸ホーリーホック等と協力し、プロスポーツ選手と市民の交流の場を提供していきます。

④国際交流の推進

- ・コロナ禍においても感染症対策を徹底し、「パラオブルーサポーター（本市の東京2020大会に向けたボランティア）」との連携、協力のもと実施した「パラオフェア2020」など、年間を通して様々なホストタウン交流事業を行い、その取り組みについて、新聞やテレビなどの報道機関に多く取り上げられたこと等から、ホストタウンサミット2021において、「優良情報発信賞・特別賞」を受賞しました。
- ・今後も、こうした国際交流の機会を活かし、関係各課・関係団体と連携を図りながら国内外に「常陸大宮」をPRします。

（2）スポーツと他の分野との融合

〔現状と課題〕

- ・本市には、水と緑豊かな自然や、国の重要文化財に指定された人面付土器が発掘された泉坂下遺跡や城跡など、いくつもの史跡が多く点在しています。これら観光・歴史資源をスポーツと融合させることで、分野を越えての参加・集客が見込め、スポーツの裾野の拡がりが見込めます。

〔施策の展開〕

①スポーツを通じた「常陸大宮」のPR推進

- ・スポーツを通じた「常陸大宮」のPRを、実践していきます。そのため、市の産業、観光に関する部署との連携を図るとともに、スポーツ施設の充実についてもSNS、HP等で発信し、市外の人々にも常陸大宮市の魅力を伝えていきます。

②歴史文化とスポーツの融合の推進

- ・これまでも常陸大宮市では、ウォーキングをしながら史跡を訪ね歩くなど、歴史文化とスポーツを融合させたイベントを開催しています。これにより、普段はスポーツに関心が薄い人たちにもスポーツに取り組む機会を提供するとともに、今後も、内容を拡充・見直ししながら、市内外において事業を継続していきます。



水戸ホーリーホック 市町村PRイベント



ふるさと再発見ウォーキング

第5章

推進体制と進行管理

第5章 推進体制と進行管理

1. 各推進主体の役割

- ・本計画を推進していくためには、市民、スポーツ団体、常陸大宮市の各主体の役割を明確にし、相互の連携を図りながら各事業に取り組んでいく必要があります。

(1) 市民の役割

- ・スポーツや健康に関心をもち、様々なスポーツ活動へ参加するよう努めます。
- ・地域コミュニティ活性化のため、体育祭やスポーツ大会等地域行事に積極的に参加するとともに、スポーツボランティアなどで社会貢献するよう努めます。

(2) スポーツ団体の役割

- ・スポーツ関連の各団体は、地域に根差した活動を通して、競技レベルの向上とともに、指導者の確保・育成に努めます。
- ・大会の運営、競技種目の普及、市民のスポーツ活動の育成指導を積極的に推進します。
- ・市スポーツ協会は、体育施設の適正な維持管理や有効活用に取り組むとともに、スポーツの振興のため、市民を対象としたスポーツ教室や各種大会の開催、地域・地区体育協会や競技団体の育成等を継続的に推進していきます。
- ・総合型地域スポーツクラブ（ひたまる25）は、幅広く市民から参画者を募り、スポーツを通じて地域が抱える問題解決に向けて活動します。

(3) 常陸大宮市の役割

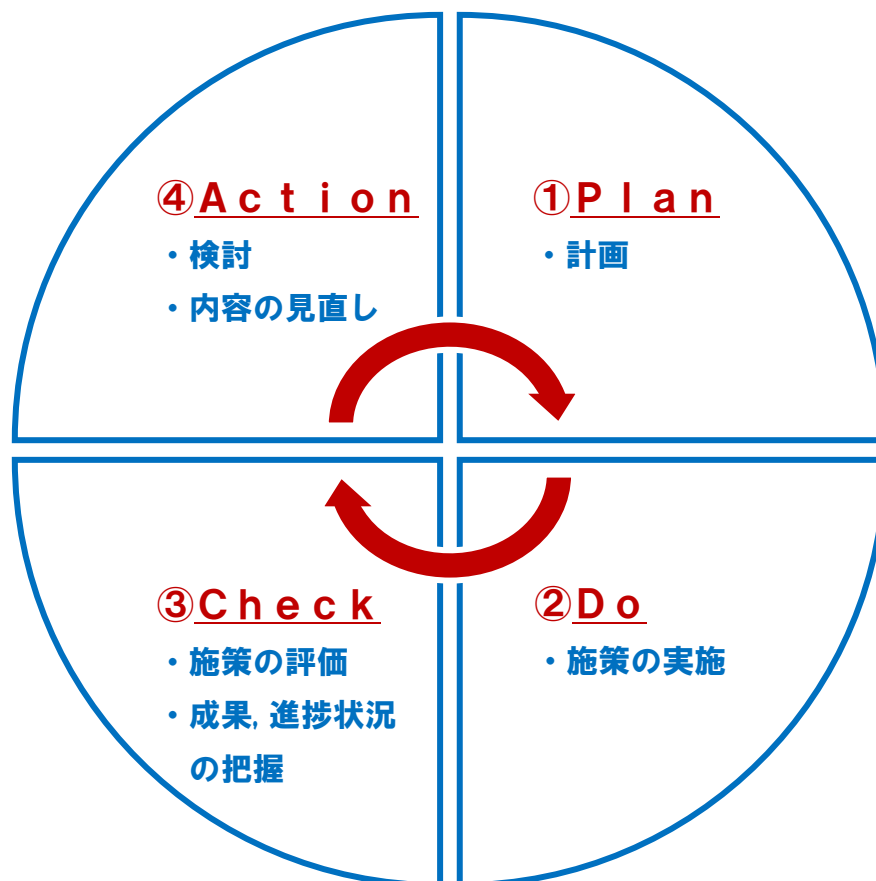
- ・国、県、周辺市町村や庁内各部局との連携を図り、スポーツ施策の総合的な取り組みを推進します。
- ・スポーツ情報の収集、分析、提供を行います。
- ・スポーツ団体、市民との連絡調整を密にし、市民との協働による施策を展開します。



2. 進行管理

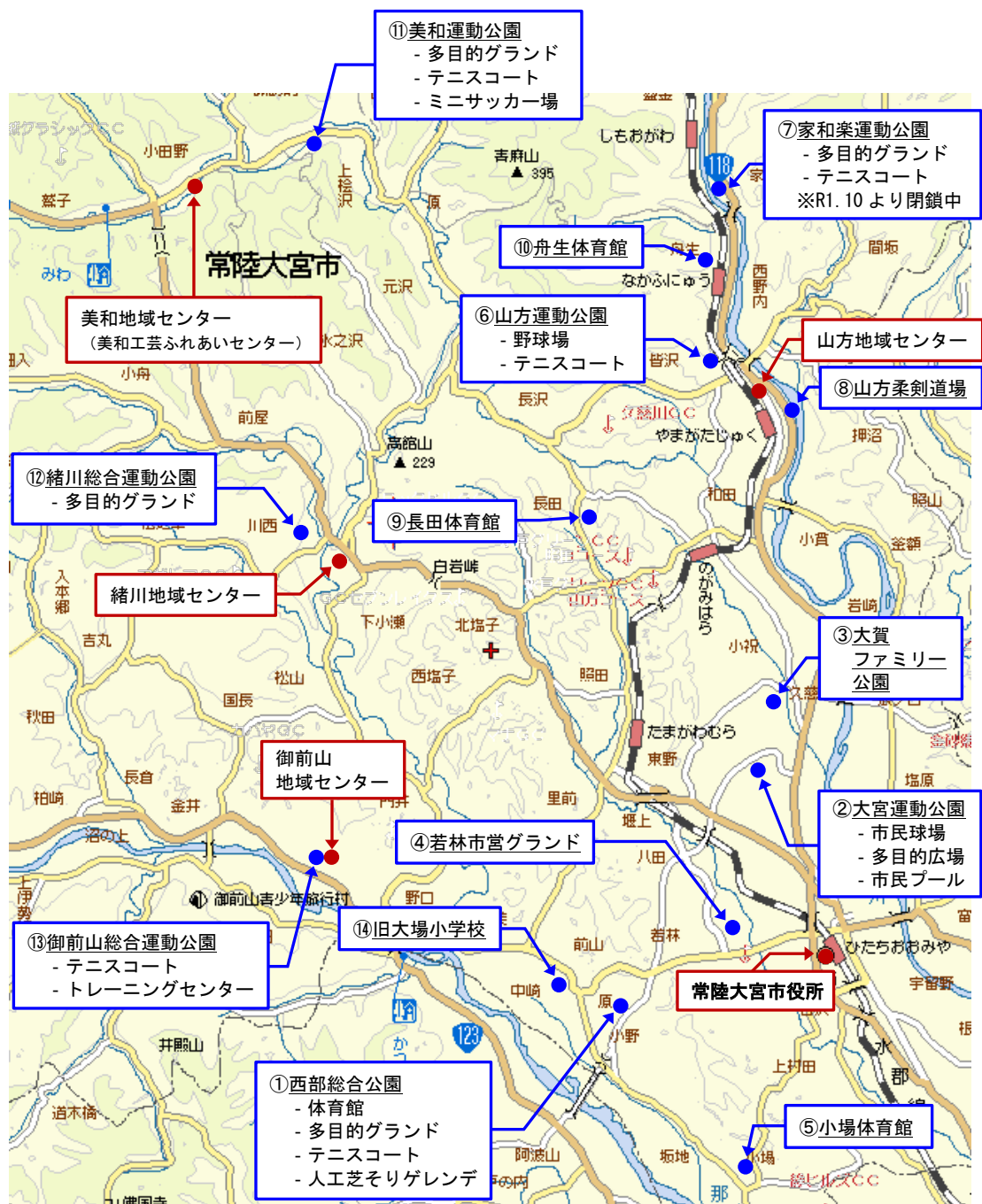
(1) 進行管理

- ・本計画の推進にあたっては、市民アンケートや常陸大宮市スポーツ推進審議会における意見等を踏まえながら、PDCAサイクルの手法により進行管理を行っていくこととします。



資料編

1. 常陸大宮市スポーツ施設位置図〔令和5年（2023年）3月現在〕



2. 常陸大宮市スポーツ施設一覧〔令和5年（2023年）3月現在〕

（1）大宮地域

名称	所在地	施設の概要
①西部総合公園	常陸大宮市 工業団地25	<p>①体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナ <ul style="list-style-type: none"> - バレーボール…………… 3 面 - バスケットボール… 2 面 - バドミントン…………… 8 面 ・サブアリーナ <ul style="list-style-type: none"> - バレーボール …… 1 面 - バスケットボール… 1 面 - バドミントン …… 3 面 ・トレーニングルーム ・選手控室、更衣室、会議室等 ・観覧席 774 席 <p>②多目的グラウンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球…………… 2 面 ・サッカー …… 2 面 <ul style="list-style-type: none"> - 上記、夜間照明施設あり <p>③テニスコート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムニコート…………… 6 面 <ul style="list-style-type: none"> - 夜間照明施設（3 面のみ） <p>④人工芝そりゲレンデ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100 m（最大傾斜 20 度） ・70 m（最大傾斜 18 度） <p>⑤駐車場 332 台（各施設共用）</p>



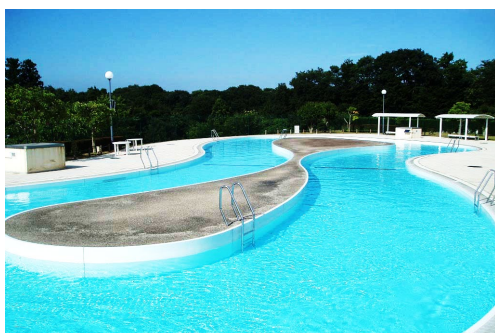
西部総合公園 体育館



西部総合公園 多目的グラウンド

※大宮地域の続き

名称	所在地	施設の概要
②大宮運動公園	常陸大宮市 鷹巣 1860	<p>①市民球場</p> <ul style="list-style-type: none"> - 両翼 98 m、中堅 122 m - 収容人数 8,000 人 - 夜間照明施設 - 全面人工芝 <p>②市民プール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児プール ・ 児童プール ・ 流水プール ・ ウォータースライダー（25m、12m） ・ 飛び込みプール ・ プールハウス <p>③多目的広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトボール…………… 1 面 - 夜間照明施設（簡易） <p>④駐車場 450 台</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大型 5 台含む。各施設共用
③大賀 ファミリー公園	常陸大宮市 小祝 227-2	<p>①テニスコート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードコート …………… 1 面 <p>②広場、水遊び場</p>
④若林グラウンド	常陸大宮市 若林 1376	①ソフトボール1面
⑤小場体育館	常陸大宮市 小場 1003-10	<p>①バレーボール …… 1 面</p> <p>②バスケットボール … 1 面</p> <p>③バドミントン …… 2 面</p>



大宮運動公園 市民プール



大宮運動公園 市民球場

(2) 山方地域

名称	所在地	施設の概要
⑥山方運動公園	常陸大宮市 山方 5819	①野球場 - 両翼 90 m、中堅 110 m - 夜間照明施設 - 収容人数 1,000 人 ②テニスコート ・オムニコート…………… 2 面 ③駐車場 70 台（各施設共用）
⑦家和楽運動公園	常陸大宮市 家和楽 161	①多目的グラウンド※ ・ソフトボール…………… 2 面 ・サッカー…………… 1 面 ②テニスコート※ ・オムニコート…………… 4 面 ③駐車場 156 台（各施設共用）※ ※令和元年（2019年）度、台風による被害を受けたことから、現在施設閉鎖中
⑧山方柔剣道場	常陸大宮市 山方 974	①柔道場 1 面＋剣道場 1 面 ②駐車場 5 台
⑨長田体育館	常陸大宮市 長田 1748	①バレーボール …… 1 面 ②バスケットボール …… 1 面 ③バドミントン …… 2 面
⑩舟生体育館	常陸大宮市 舟生 865	①バレーボール …… 1 面 ②バスケットボール …… 1 面 ③バドミントン …… 2 面



山方運動公園 野球場



山方運動公園 テニスコート

(3) 美和地域

名称	所在地	施設の概要
⑪美和運動公園	常陸大宮市 上檜沢 1523	①多目的グラウンド ・ソフトボール…………… 2 面 ・サッカー…………… 1 面 ・野球…………… 1 面 - 夜間照明施設 ②テニスコート ・ハードコート…………… 2 面 ③駐車場 100 台 (多目的グラウンド、テニスコート共用) ④ミニサッカー場 ・サッカー…………… 1 面 ・フットサル…………… 4 面 ・クロッケー…………… 8 面 ⑤駐車場 25 台 (ミニサッカー場)



美和運動公園 テニスコート



美和運動公園 ミニサッカー場

(4) 緒川地域

名称	所在地	施設の概要
⑫緒川運動公園	常陸大宮市 上小瀬 5777	①多目的グラウンド ・ソフトボール…………… 2 面 ・サッカー…………… 1 面 ・野球…………… 1 面 - 夜間照明施設 ②駐車場 96 台



緒川運動公園 多目的グラウンド

(5) 御前山地域

名称	所在地	施設の概要
⑬御前山運動公園	常陸大宮市 野口 3195	①テニスコート ・オムニコート…………… 3 面 ②トレーニングセンター ・バレーボール…………… 2 面 ・バスケットボール…………… 1 面 ③駐車場 200 台（各施設共用）



御前山運動公園 トレーニングセンター



御前山運動公園 遊具

(6) ひたまる 25 の活動拠点

名称	所在地	施設の概要
⑭旧大場小学校	常陸大宮市 小野 451	①校舎 ②体育館 ③グラウンド



旧大場小学校 グラウンド



旧大場小学校 校舎内

3. 常陸大宮市スポーツ推進審議会委員名簿

(1) スポーツ推進審議会委員

No	氏名	役職	地域	所属等
1	寺門 直人	委員長	大宮	地域体育協会役員 (一財)市スポーツ協会評議員
2	栗田 玲子	副委員長	御前山	元教員
3	小橋 主典		大宮	元教員
4	鈴木 昌子		大宮	スポーツ団体関係者
5	中村 弘道		大宮	(一財)市スポーツ協会理事 元教員
6	菊池 勝雄		大宮	(一財)市スポーツ協会理事長
7	中嶋 正夫		山方	地域体育協会会長 元教員
8	木村 一郎		山方	地域体育協会役員 元スポーツ推進委員
9	井野瀬 仁美		美和	元スポーツ推進委員
10	坏 純子		美和	元教員
11	古澤 豊巳		緒川	地域体育協会役員
12	藤田 佳史		緒川	スポーツ少年団本部長 元スポーツ推進委員
13	青木 馨		御前山	地域体育協会会長 (一財)市スポーツ協会理事
14	青柳 幸雄		御前山	地域体育協会役員

4. 開催経過

(1) スポーツ推進審議会 開催経過

回	開催日	協議事項
第1回	令和4年(2022年) 7月5日(火)	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ推進計画の改訂趣旨・推進計画策定スケジュール
第2回	令和4年(2022年) 10月13日(木)	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ推進計画策定に向けて・アンケート調査分析報告
第3回	令和4年(2022年) 12月22日(木)	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ推進計画(素案)の確認・アンケート調査分析追加報告
第4回	令和5年(2023年) 2月中旬	<ul style="list-style-type: none">・パブリックコメントの説明



第2回 スポーツ推進審議会

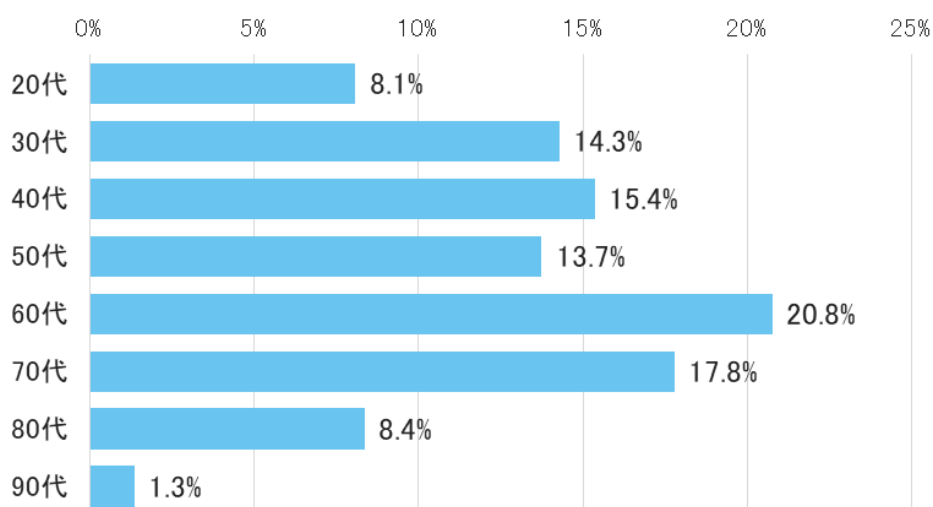
5. 市民アンケート調査結果詳細

(1) アンケート調査結果詳細

〔回答者属性〕

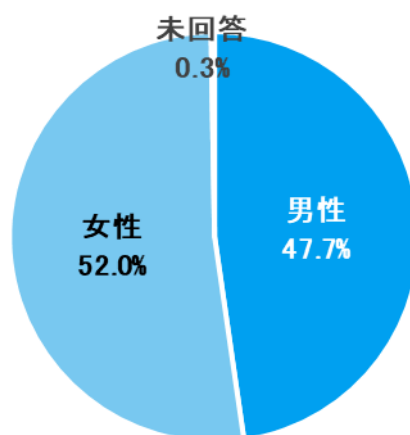
問1 「年齢」は、おいくつですか？（回答は、1つ）

・最も多いのは「60代（20.8%）」で、続いて「70代（17.8%）」が多くなっている。



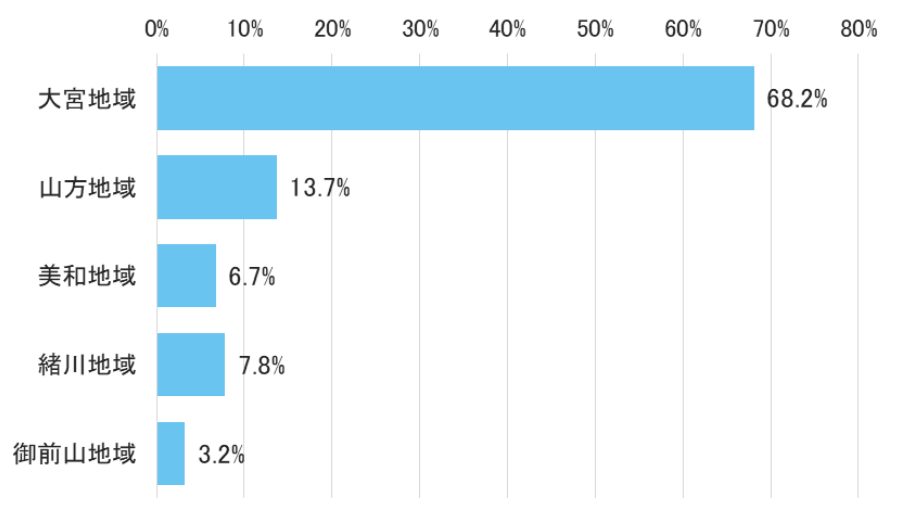
問2 「性別」は、どちらですか？（回答は、1つ）

・「男性」が47.7%、「女性」が52.0%となっている。



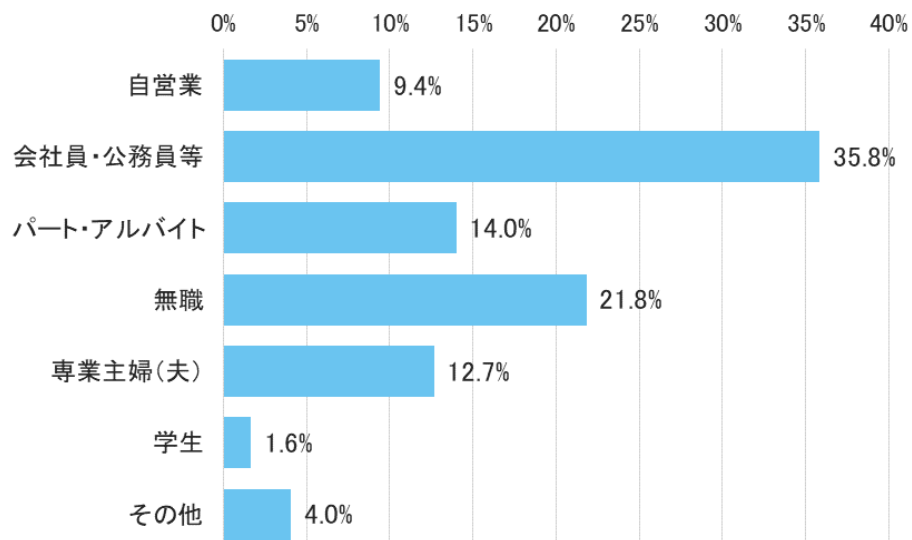
問3 「お住まいの地区」は、どちらですか？（回答は、1つ）

・「大宮地域（68.2%）」が最も多く、全体の約7割を占める。



問4 どのような「職業」に就かれていますか？（回答は、1つ）

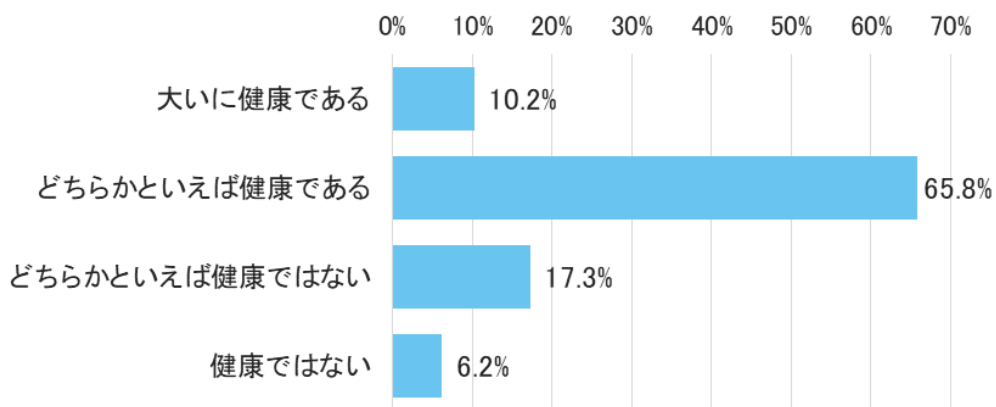
・最も多いのは「会社員・公務員等（35.8%）」で、続いて「無職（21.8%）」が多くなっている。



〔自身の健康状態・生活習慣〕

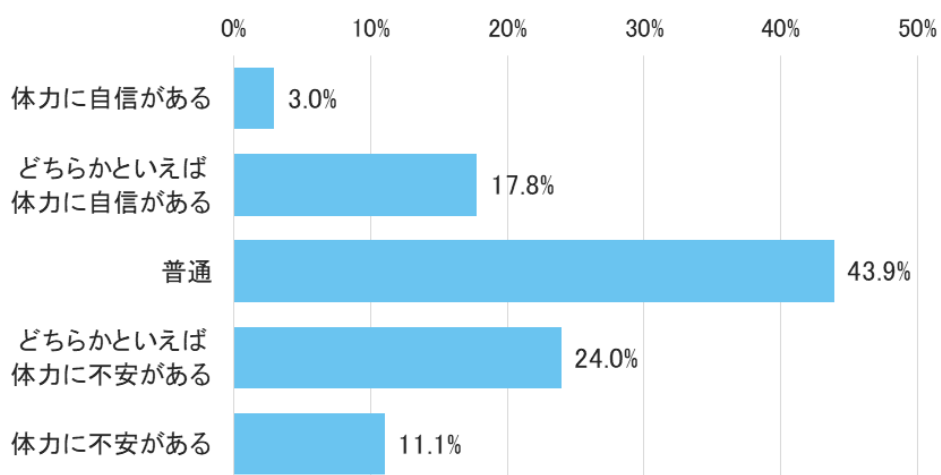
問5 最近「健康」だと感じていますか？（回答は、1つ）

- ・「どちらかといえば健康である（65.8%）」が最も多い。
- ・約2割の人が、自分が健康だと感じていない（「どちらかといえば健康ではない（17.3%）」＋「健康ではない（6.2%）」）。



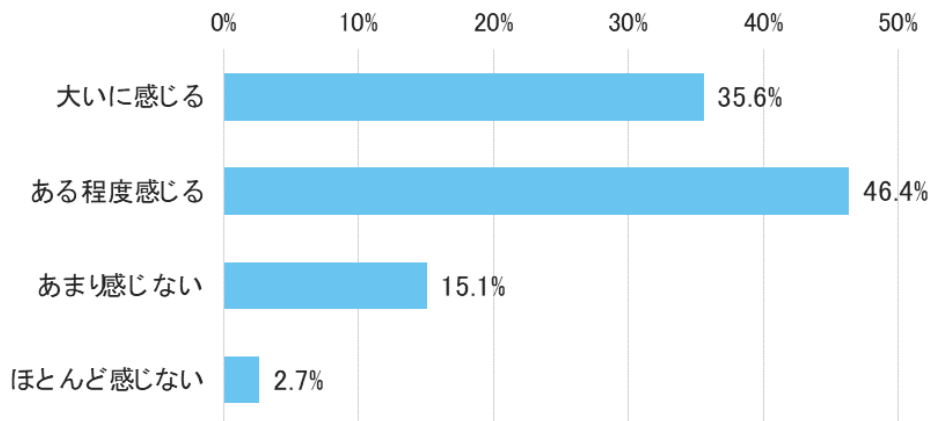
問6 「自分の体力」をどのように感じていますか？（回答は、1つ）

- ・「普通（43.9%）」が最も多い。
- ・約3割の人が、体力に不安を感じている（「どちらかといえば体力に不安がある（24.0%）」＋「体力に不安がある（11.1%）」）。



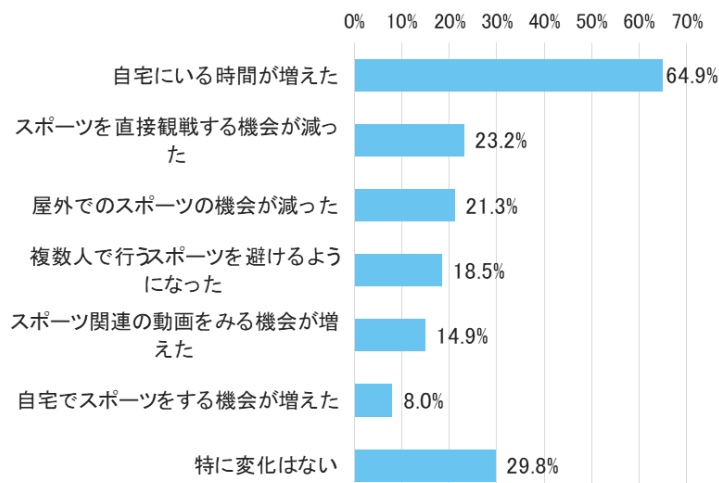
問7 「運動不足」を感じていますか？（回答は、1つ）

- ・「ある程度感じる（46.4%）」が最も多い。
- ・約8割の人が、運動不足であると感じている（「大いに感じる（35.6%）」+「ある程度感じる（46.4%）」）。



問8 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、生活様式にどのような変化がありましたか？（回答は、6つまで）

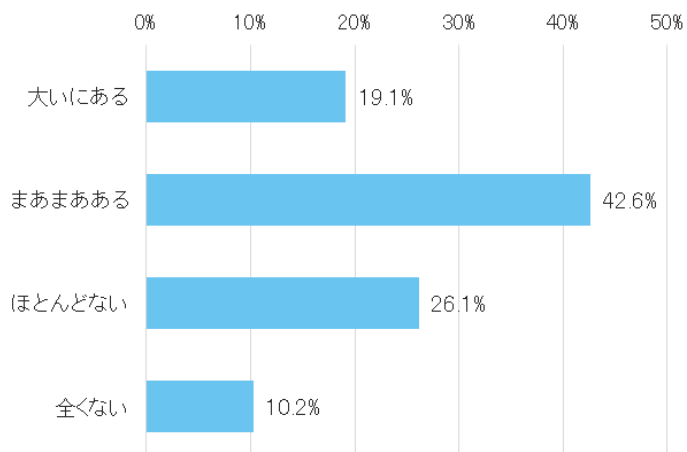
- ・「自宅にいる時間が増えた（64.9%）」が最も多い。
- ・「スポーツを直接観戦する機会が減った（23.2%）」、「屋外でのスポーツの機会が減った（21.3%）」、「複数人で行うスポーツを避けるようになった（18.5%）」については、それぞれ約2割の方が回答しており、コロナ禍の影響でスポーツに触れる機会が減少したと感じている人がいる。



【スポーツへの関心度】

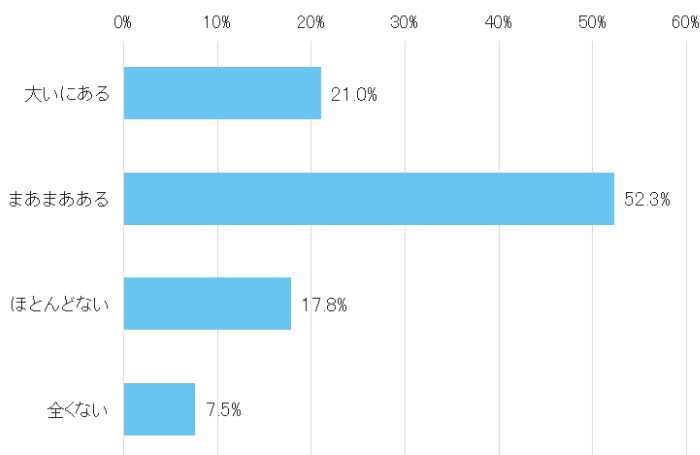
問9 自分で行うスポーツ「するスポーツ」に関心がありますか？
(回答は、1つ)

- ・約6割の人が、「するスポーツ」に関心を持っている（「大いにある（19.1%）」
+「まあまあある（42.6%）」。



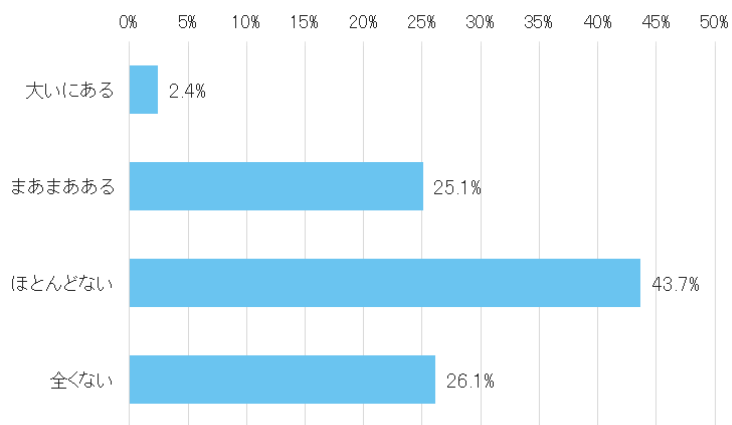
問10 テレビや競技場で観戦するスポーツ「見るスポーツ」に関心がありますか？ (回答は、1つ)

- ・約7割の人が、「見るスポーツ」に関心を持っている（「大いにある（21.0%）」
+「まあまあある（52.3%）」。



問 11 ボランティア等で競技運営に参加する「かかわるスポーツ」に関心がありますか？（回答は、1つ）

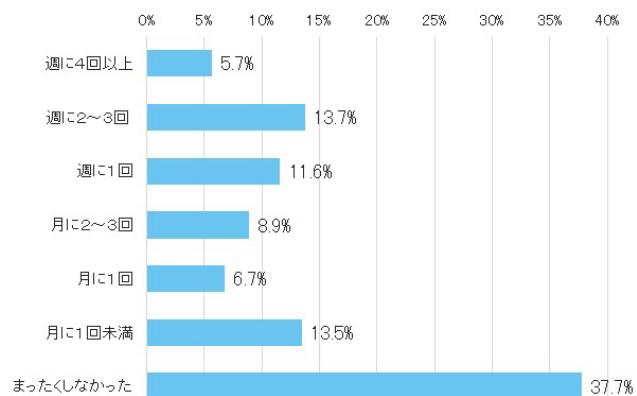
- ・約7割の人が、「かかわるスポーツ」への関心がない（「ほとんどない（43.7%）」＋「全くない（26.1%）」）と回答している。
- ・「するスポーツ」、「見るスポーツ」への関心が高い人が多い一方で、「かかわるスポーツ」への関心が高い人は比較的少ない。



【過去1年間のスポーツ実施状況】

問 12 過去1年間にどれくらいスポーツをしましたか？（学校の授業以外）（回答は、1つ）

- ・約3割の人が、週に1回以上スポーツをしている（「週に4回以上（5.7%）」＋「週に2～3回（13.7%）」＋「週に1回（11.6%）」）。
- ・一方で、約4割の人が、「まったくしなかった（37.7%）」と回答している。

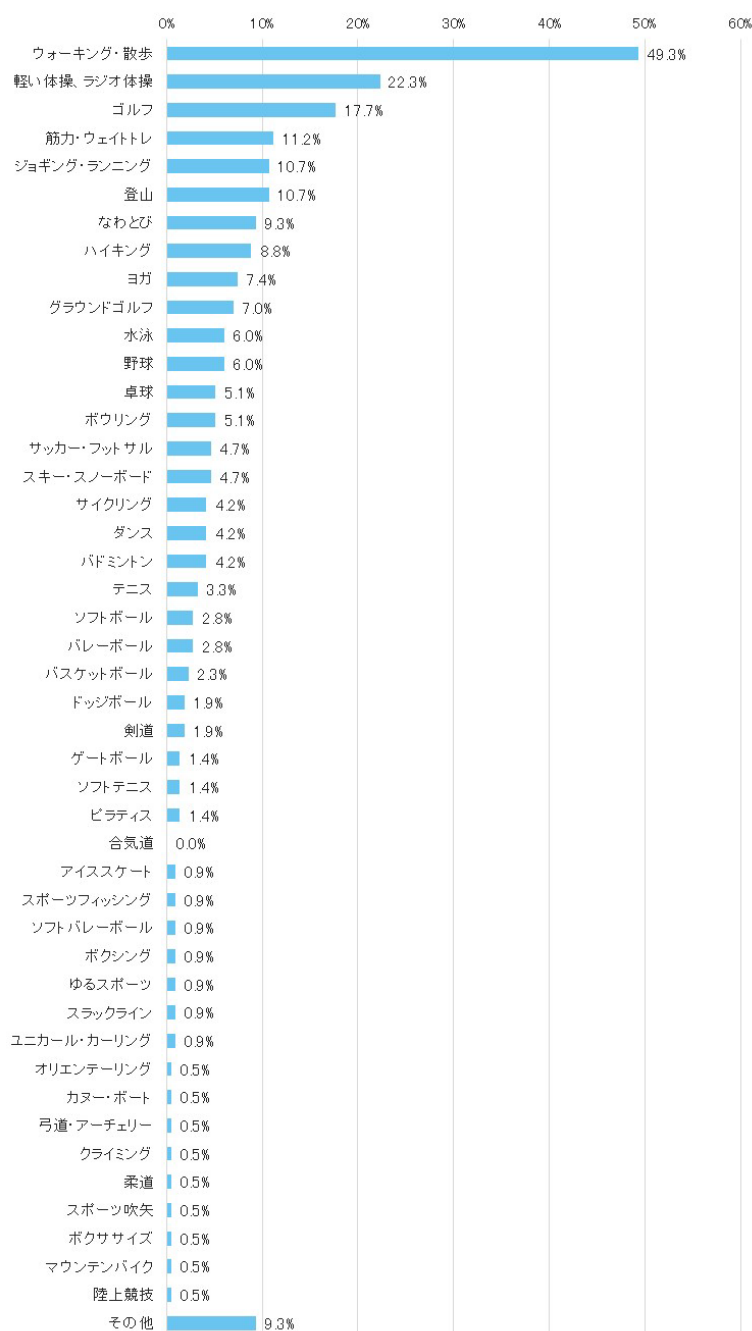


※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問13 具体的にどのようなスポーツをしましたか？

(回答は実施回数の多い順から8つまで)

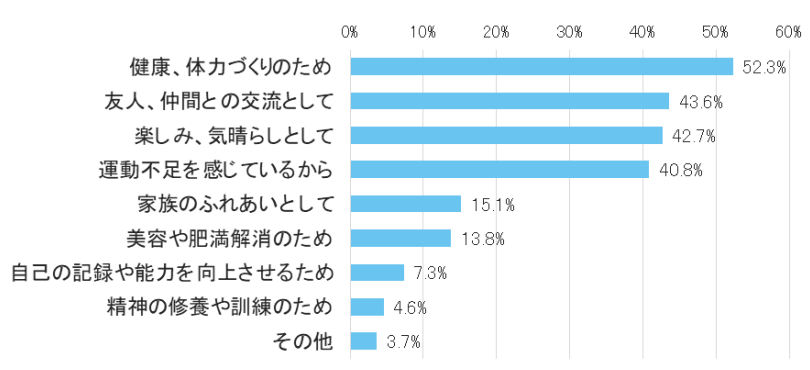
- ・最も多いのは「ウォーキング・散歩 (49.3%)」で約半数を占めており、続いて「軽い体操、ラジオ体操 (22.3%)」が多くなっている。
- ・自分1人、もしくは少人数で気軽にできるスポーツをしている人が多い。



※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問14 「どのような理由で」それらのスポーツをしましたか？
(回答は、3つまで)

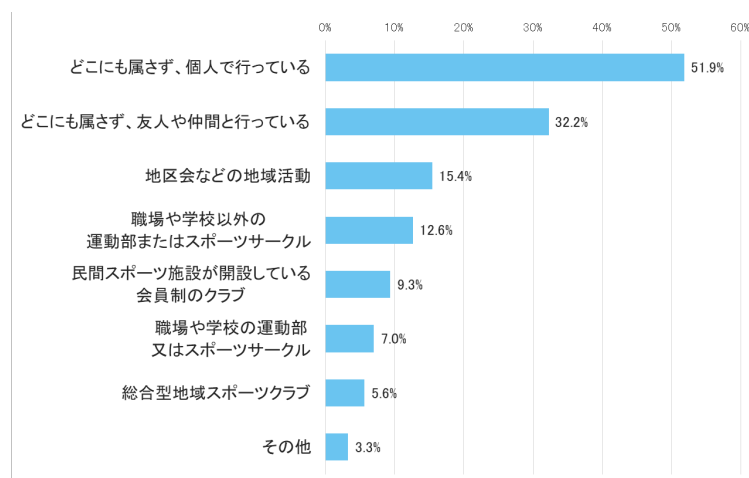
- ・「健康、体力づくりのため (52.3%)」が最も多く、半数以上の方が理由として挙げている。
- ・「友人、仲間との交流として (43.6%)」、「楽しみ、気晴らしとして (42.7%)」、「運動不足を感じているから (40.8%)」といった理由も多くなっている。



※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問15 スポーツを「どのような形態」で行っていますか？ (回答は、3つまで)

- ・「どこにも属さず、個人で行っている (51.9%)」が最も多く、約半数を占めている。
- ・特定のサークルやクラブに所属せず、個人や友人とスポーツをしている人が多い。

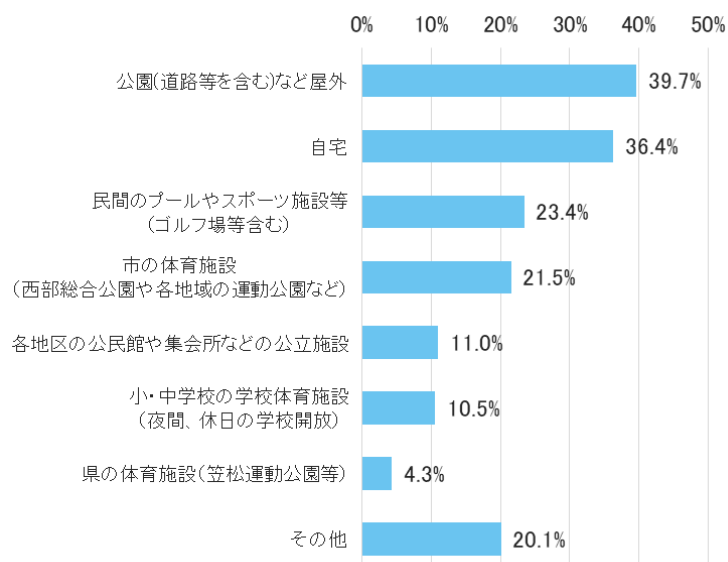


※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問16 スポーツを「行っている場所」はどこですか？

(回答は実施回数の多い順から3つまで)

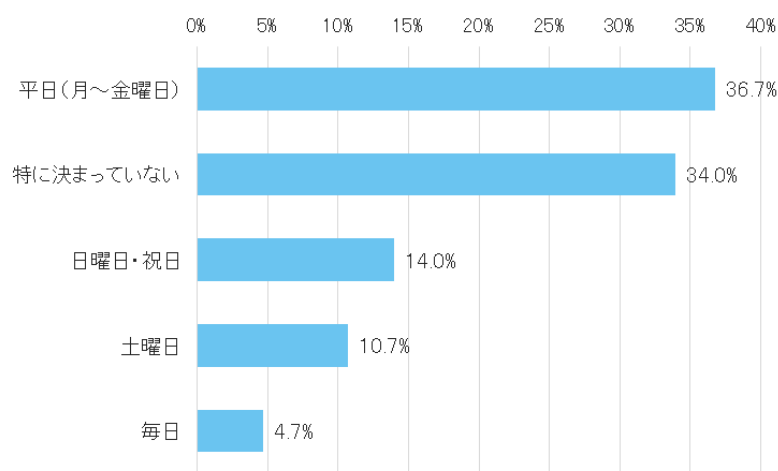
- ・最も多いのは「公園（道路等を含む）など屋外（39.7%）」で、続いて「自宅（36.4%）」が多くなっている。



※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問17 主に「何曜日」にスポーツを行っていますか？（回答は、1つ）

- ・最も多いのは「平日（月～金曜日）（36.7%）」で、続いて「特に決まっていない（34.0%）」が多くなっている。

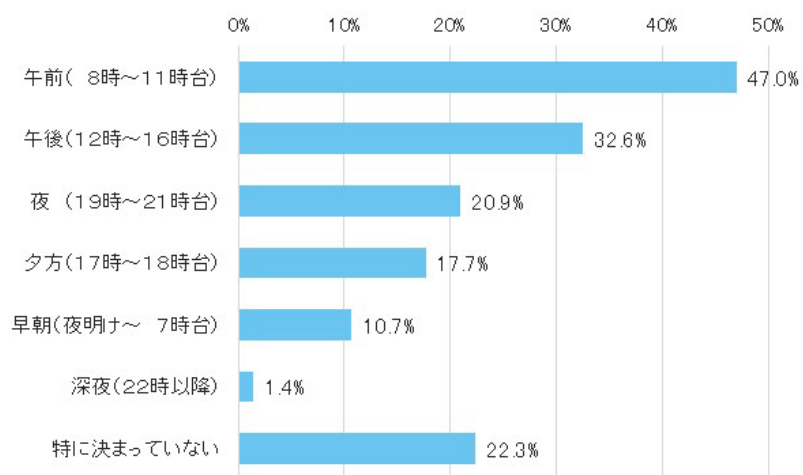


※問12で、「スポーツをした」と回答された方のみ回答

問18 主にスポーツを行う「時間帯」はいつですか？

(回答は実施回数の多い順から2つまで)

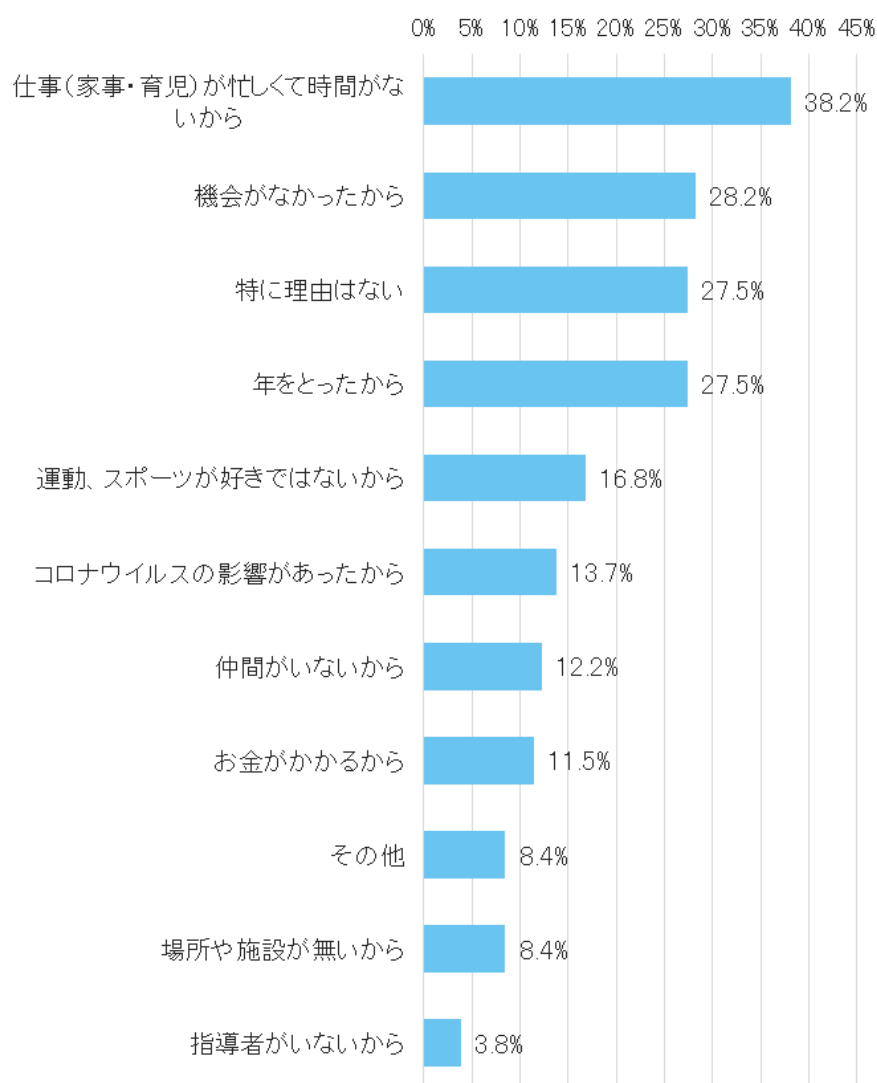
- ・最も多いのは「午前（8時～11時台）（47.0%）」で、続いて「午後（12時～16時台）（32.6%）」が多くなっている。



※問12で、「スポーツをしなかった」と回答された方のみ回答

問19 スポーツをしなかったのはどのような理由ですか？（回答は、3つまで）

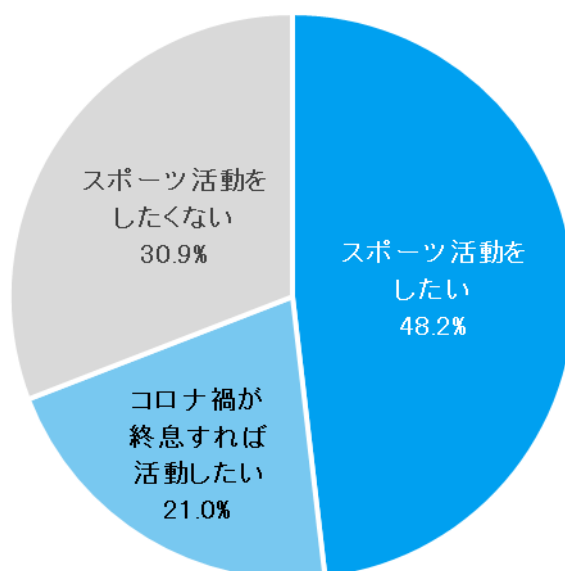
- ・最も多いのは「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから（38.2%）」で、続いて「機会がなかったから（28.2%）」、「特に理由はない（27.5%）」、「年をとったから（27.5%）」が多くなっている。
- ・約1割の人が、「コロナウイルスの影響があったから（13.7%）」と回答している。



【今後のスポーツ活動実施への意向】

問 20 引き続き、またはスポーツ活動を行いたいですか？（回答は、1つ）

・約7割の人が、今後スポーツ活動をしたと考えている（「スポーツ活動をした
（48.2%）」 + 「コロナ禍が終息すれば活動したい（21.0%）」）。

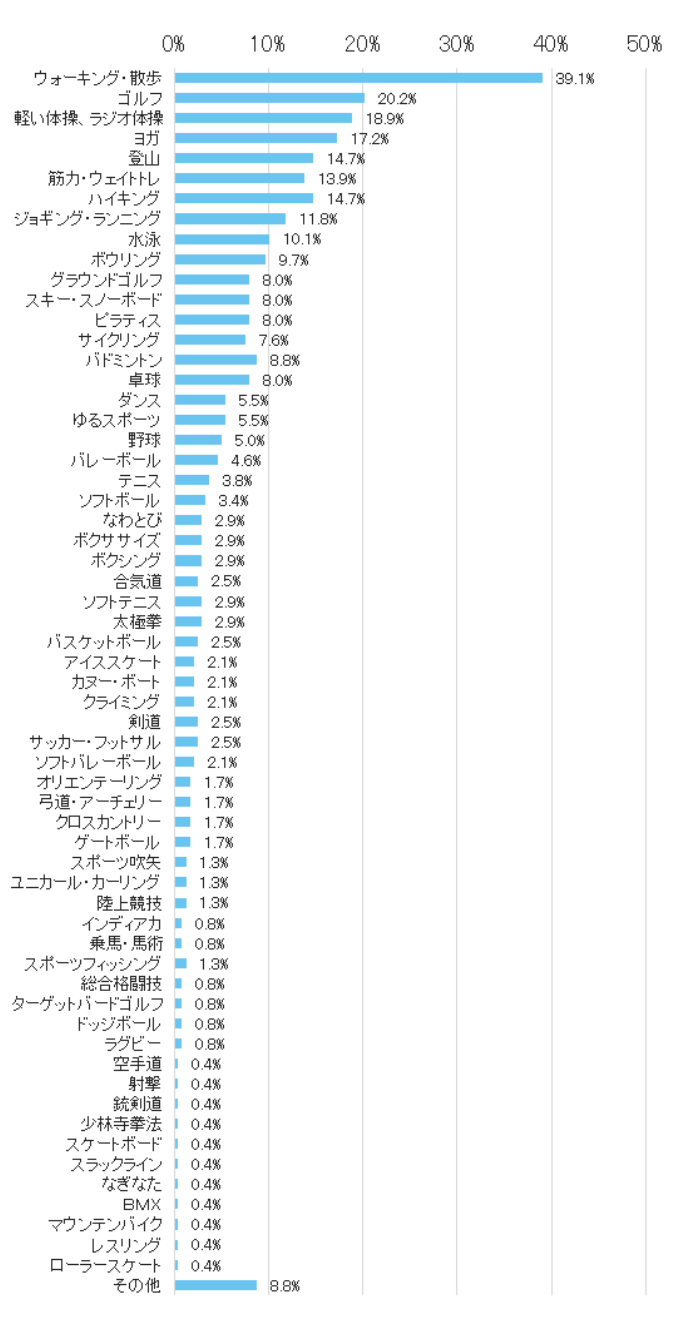


※問20で、「スポーツ活動をしたい」または「コロナ禍が終息すれば活動したい」と回答された方のみ回答

問21 今後「どのようなスポーツを行いたい」ですか？

(回答は希望の高い順から8つまで)

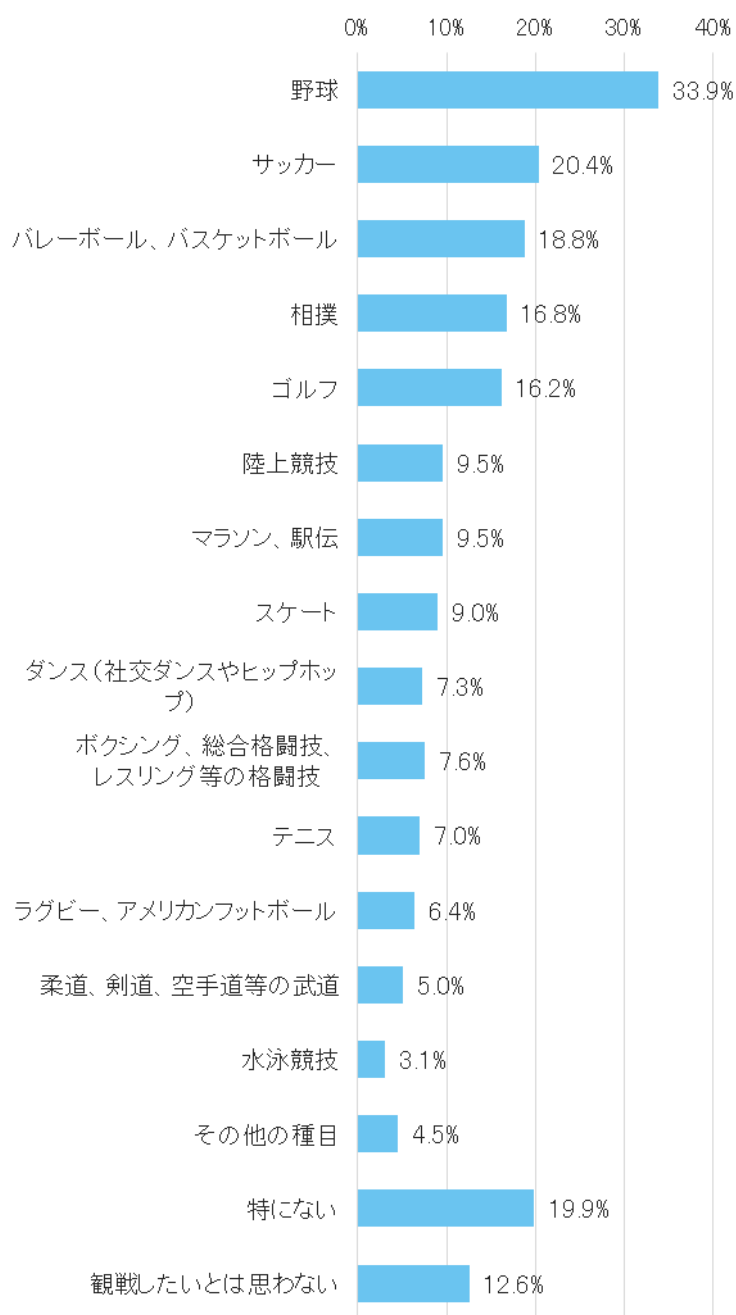
- ・最も多いのは「ウォーキング・散歩 (39.1%)」で、続いて「ゴルフ (20.2%)」、「軽い体操、ラジオ体操 (18.9%)」、「ヨガ (17.2%)」が多くなっている。



〔市内で開催するスポーツ大会への要望〕

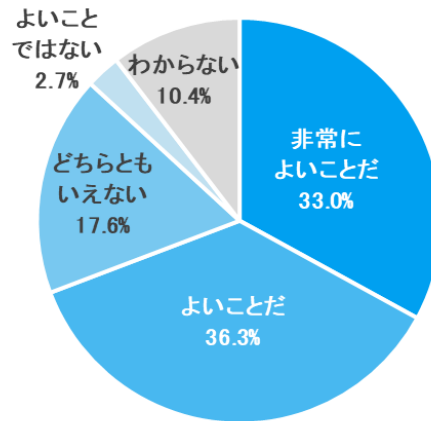
問 22 今後、「競技会場に行って実際に観戦したいと思うスポーツ」がありますか？（回答は、5つまで）

- ・「野球（33.9%）」が最も多い。
- ・「サッカー（20.4%）」、「バレーボール、バスケットボール（18.8%）」、「相撲（16.8%）」、「ゴルフ（16.2%）」の回答も多くなっている。



問 23 常陸大宮市内において、「国際・全国レベルのスポーツ大会（競技会）を開催」することについてどう思いますか？（回答は、1つ）

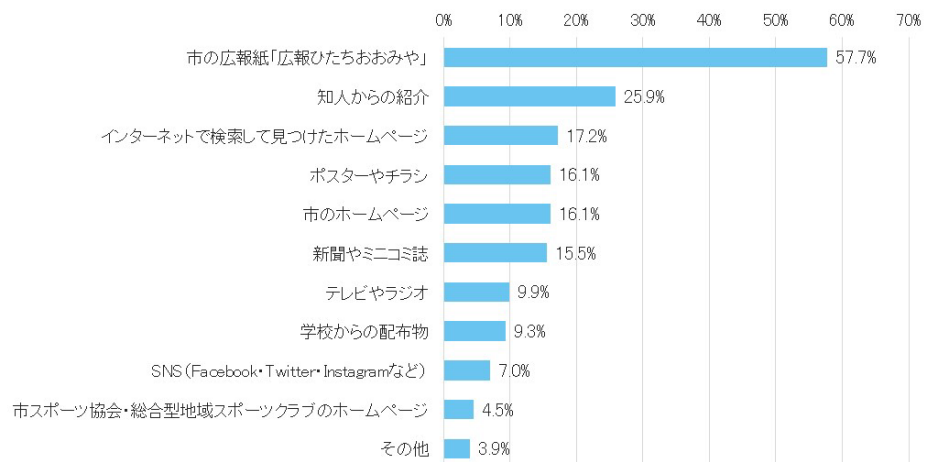
・約7割の人が、市内で国際・全国レベルのスポーツ大会を開催することについて、肯定的に考えている（「非常によいことだ（33.0%）」＋「よいことだ（36.3%）」）。



〔スポーツ情報の入手手段・要望等〕

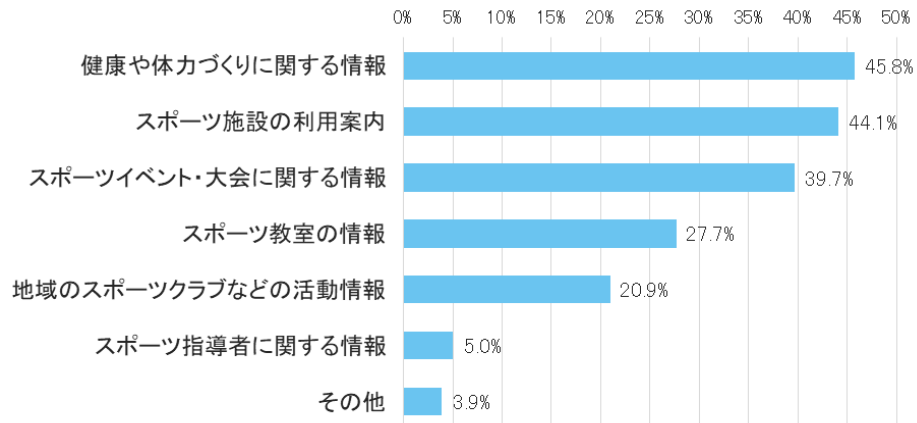
問 24 「スポーツ情報（施設の場所や利用方法、スポーツイベントの日時や場所、スポーツ教室など）」を、どこから入手していますか？どのような手段ですか？（回答は、3つまで）

・「市の広報紙「広報ひたちおおみや」（57.7%）」が最も多く、約6割の人が広報紙からスポーツ情報を入手している。



問 25 常陸大宮市のスポーツ情報に関して、どのような情報の充実を望んでいますか？（回答は、3つまで）

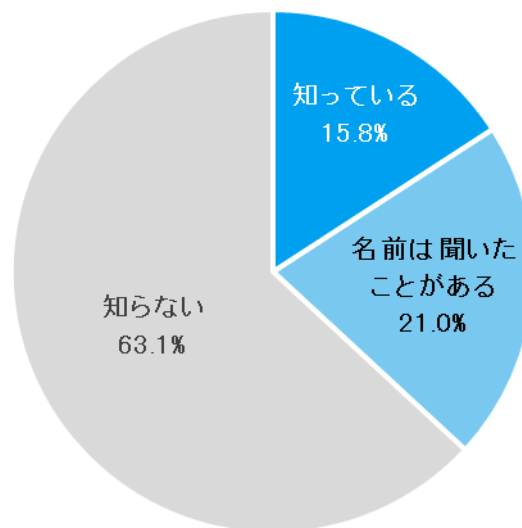
・最も多いのは「健康や体力づくりに関する情報（45.8%）」で、続いて「スポーツ施設の利用案内（44.1%）」が多くなっている。



【市内のスポーツ推進に係る活動の認知度】

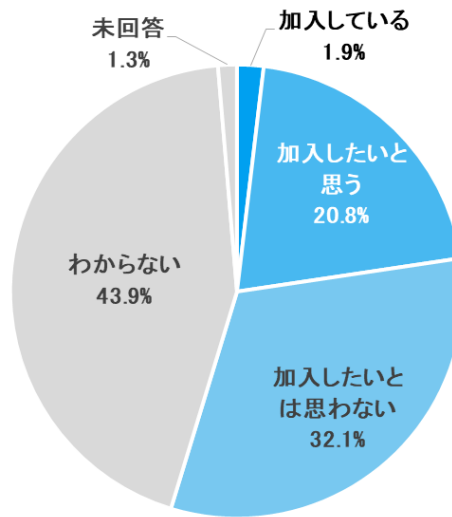
問 26 「総合型地域スポーツクラブ」をご存知ですか？（回答は、1つ）

・約6割の人が「知らない（63.1%）」と回答しており、認知度は高くない。



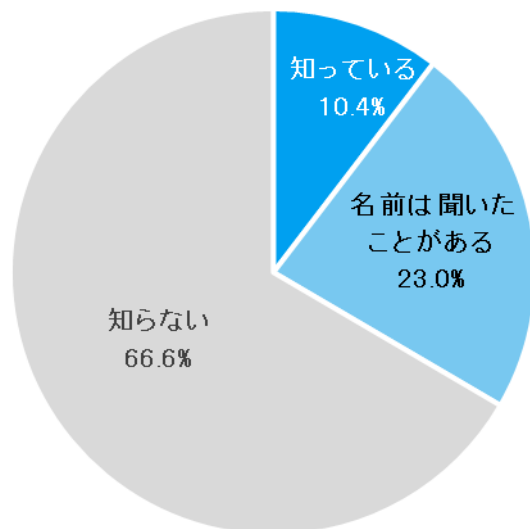
問 27 「総合型地域スポーツクラブ」が身近にあれば、加入したいと思いますか？（回答は、1つ）

・約2割の人が「加入したいと思う（20.8%）」と回答している。



問 28 常陸大宮市では、生涯スポーツの普及・推進を図るため、スポーツ推進委員が指導や助言を行っています。あなたは、スポーツ推進委員をご存知ですか？（回答は、1つ）

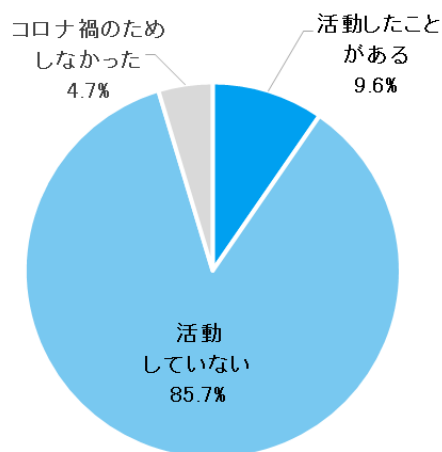
・約7割の人が「知らない（66.6%）」と回答しており、認知度は高くない。



〔スポーツに関するボランティア活動への参加意向〕

問 29 地域の市民体育祭のお手伝いやスポーツ少年団のお世話など各種スポーツ大会やイベントにおいて、過去1年間にボランティアとして、活動されたことがありますか？（回答は、1つ）

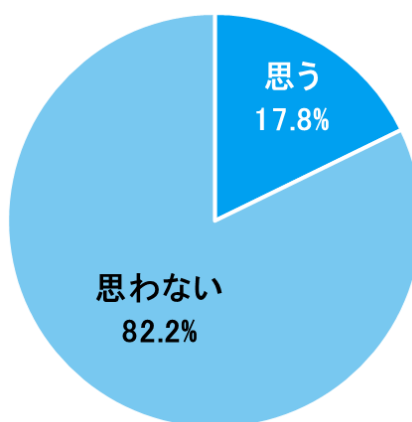
・「活動したことがある（9.6%）」人は、約1割となっている。



※問29で「活動していない」または「コロナ禍のためしなかった」と回答された方のみ回答

問 30 今後、スポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか？（回答は、1つ）

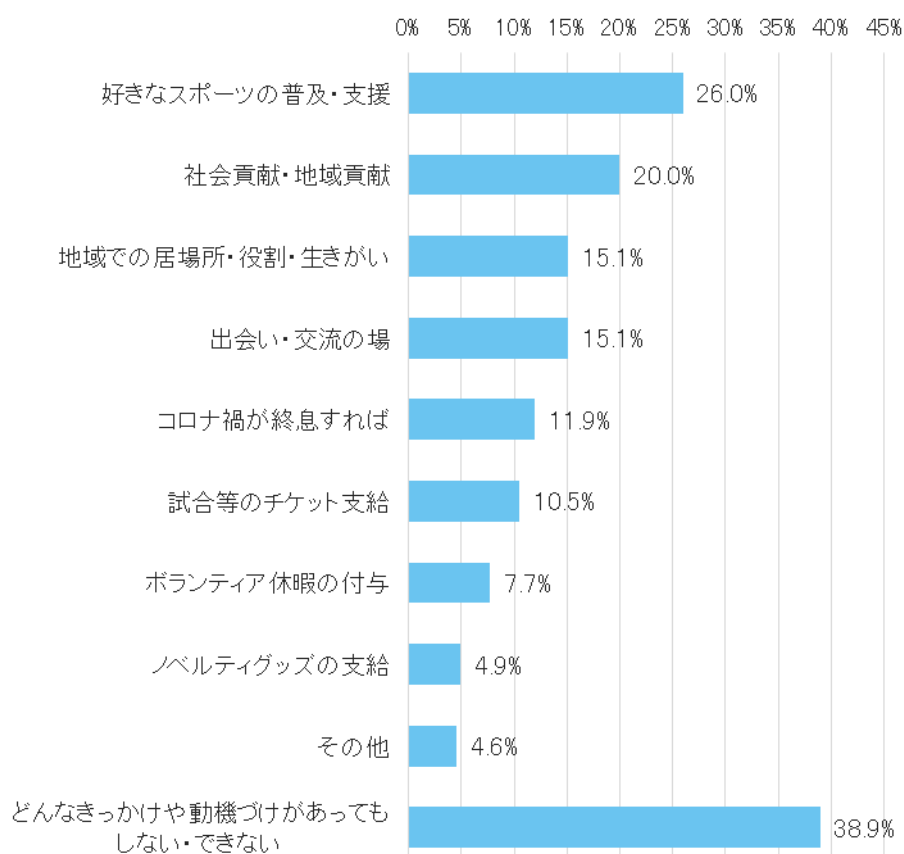
・過去1年間にスポーツにかかわるボランティア活動をしていない人のうち、約2割の人は、今後活動したいと考えている。



※問29で「活動していない」または「コロナ禍のためしなかった」と回答された方のみ回答

問31 どのような「きっかけや動機づけ」があれば、スポーツに関するボランティア活動を行いますか？（回答は、3つまで）

- ・スポーツに関するボランティア活動を行うきっかけや動機づけとして、最も多いのは「好きなスポーツの普及・支援（26.0%）」で、続いて「社会貢献・地域貢献（20.0%）」が多くなっている。

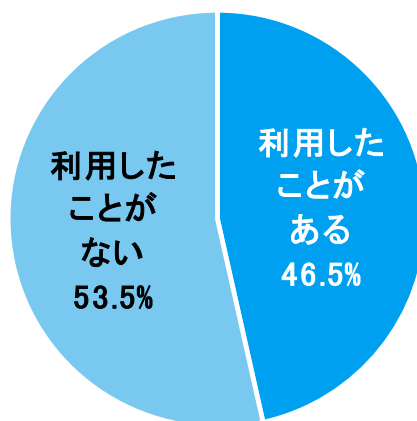


〔市内スポーツ施設の利用状況・要望〕

問 32 市内にある公共スポーツ施設を利用したことがありますか？

(回答は、1つ)

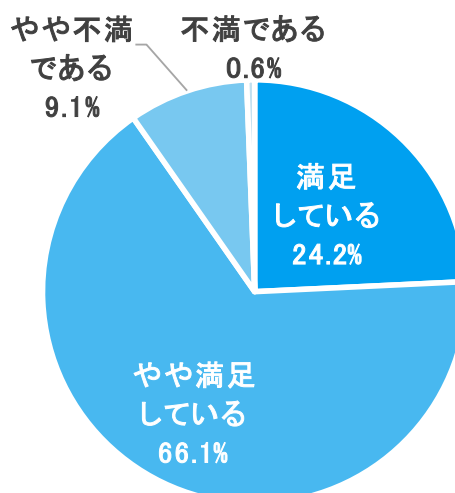
- ・市内公共スポーツ施設を「利用したことがある」人が 46.5%、「利用したことがない」人が 53.5%となっている。



※問 32 で「利用したことがある」と回答された方のみ回答

問 33 市内の公共スポーツ施設に満足していますか？ (回答は、1つ)

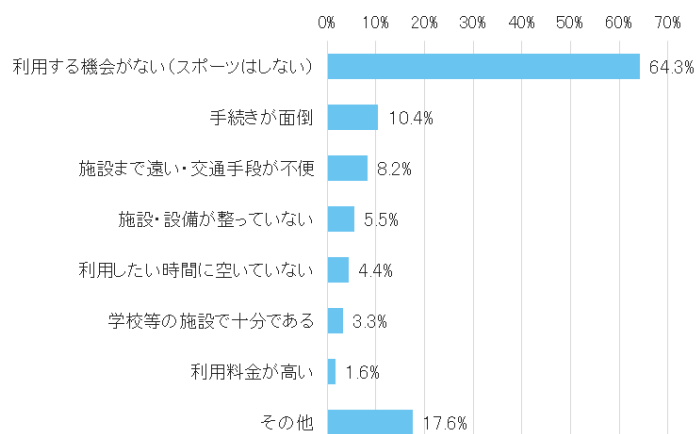
- ・約 9 割の人が、市内公共スポーツ施設への満足度を高く評価している（「満足している (24.2%)」+「やや満足している (66.1%)」)。



※問32で「利用したことがない」と回答された方のみ回答

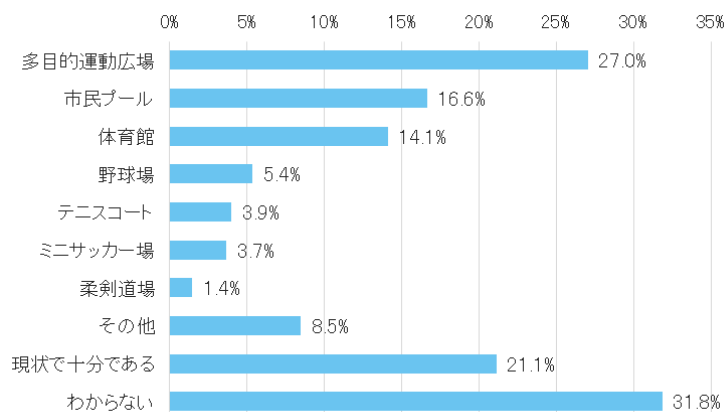
問34 市内の公共スポーツ施設を利用しない(できない)理由は何ですか？
(回答は2つまで)

- ・「利用する機会がない(スポーツはしない)(64.3%)」が最も多い。
- ・市内公共スポーツ施設を利用しない理由は様々であるが、「手続きが面倒(10.4%)」、「施設まで遠い・交通手段が不便(8.2%)」といった理由が、比較的多く挙げられている。



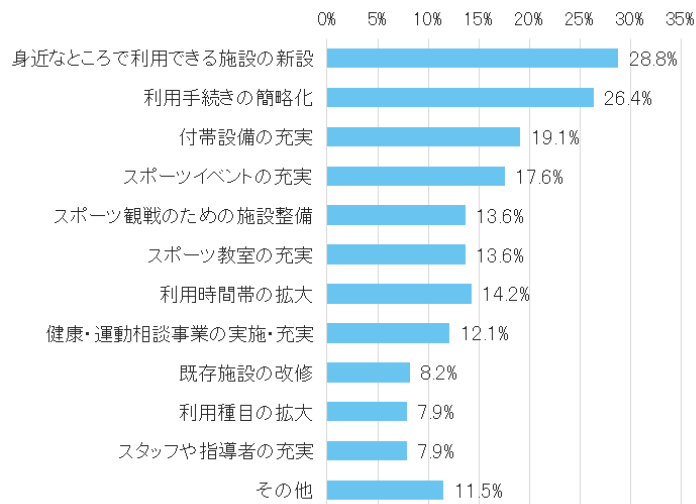
問35 常陸大宮市の現状から、今後特に整備・充実(修繕や増設)してほしい施設・設備はどのようなものですか？(回答は、3つまで)

- ・市内のスポーツ施設や設備の中で、最も整備・充実の要望が多いのは「多目的運動広場(27.0%)」で、続いて「市民プール(16.6%)」、「体育館(14.1%)」が多くなっている。



問 36 常陸大宮市の施設に求めることはありますか？（回答は、3つまで）

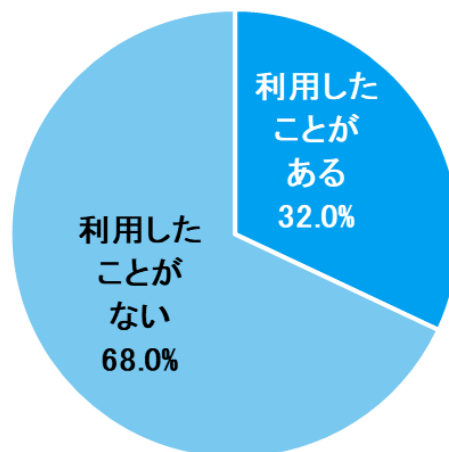
・最も多いのは「身近なところで利用できる施設の新設（28.8%）」で、続いて「利用手続きの簡略化（26.4%）」が多くなっている。



問 37 市内にある民間スポーツ施設を利用したことがありますか？

（回答は、1つ）

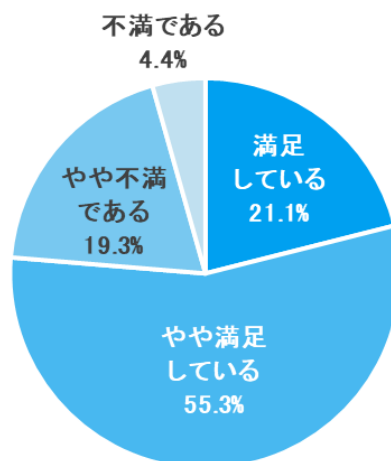
・市内民間スポーツ施設を「利用したことがある」人が32.0%、「利用したことがない」人が68.0%となっている。



※問37で「利用したことがある」と回答された方のみ回答

問38 市内の民間スポーツ施設に満足していますか？（回答は、1つ）

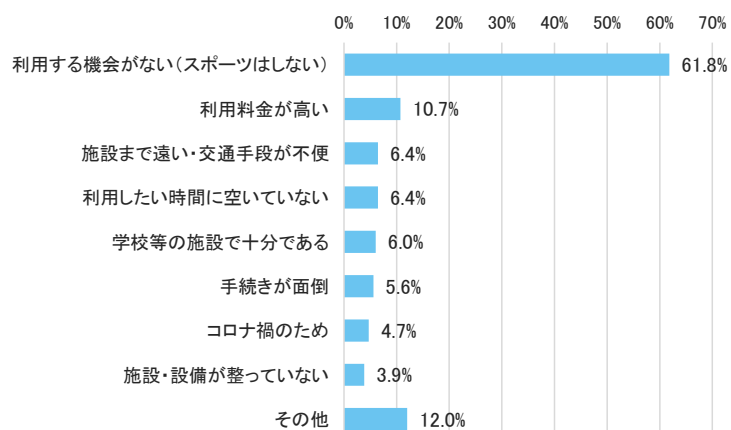
- ・約8割の人が、市内民間スポーツ施設への満足度を高く評価している（「満足している（21.1%）」＋「やや満足している（55.3%）」）。



※問37で「利用したことがない」と回答された方のみ回答

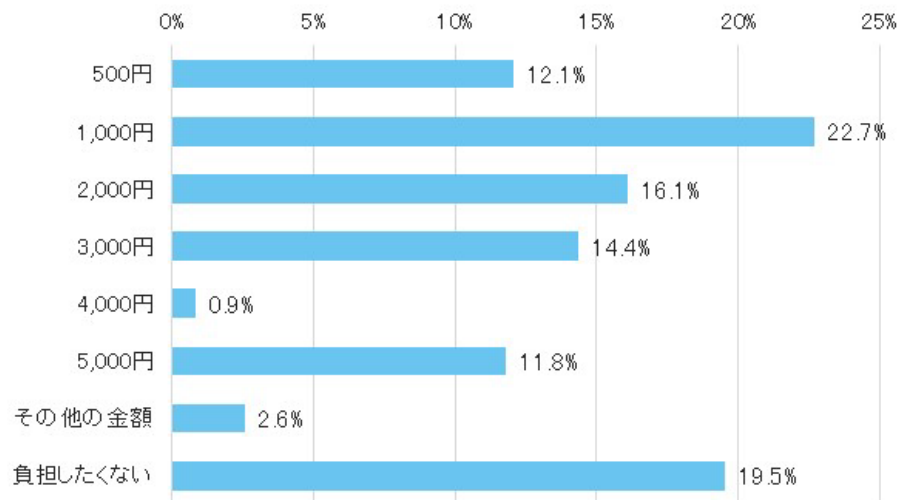
問39 市内の民間スポーツ施設を利用しない(できない)理由は何ですか？（回答は、2つまで）

- ・「利用する機会がない(スポーツはしない)（61.8%）」が最も多い。
- ・市内民間スポーツ施設を利用しない理由は様々であるが、「利用料金が高い（10.7%）」という理由が、比較的多く挙げられている。



問 40 スポーツを行うにあたって、1ヵ月あたり何円程度の負担が可能ですか？
(回答は、1つ)

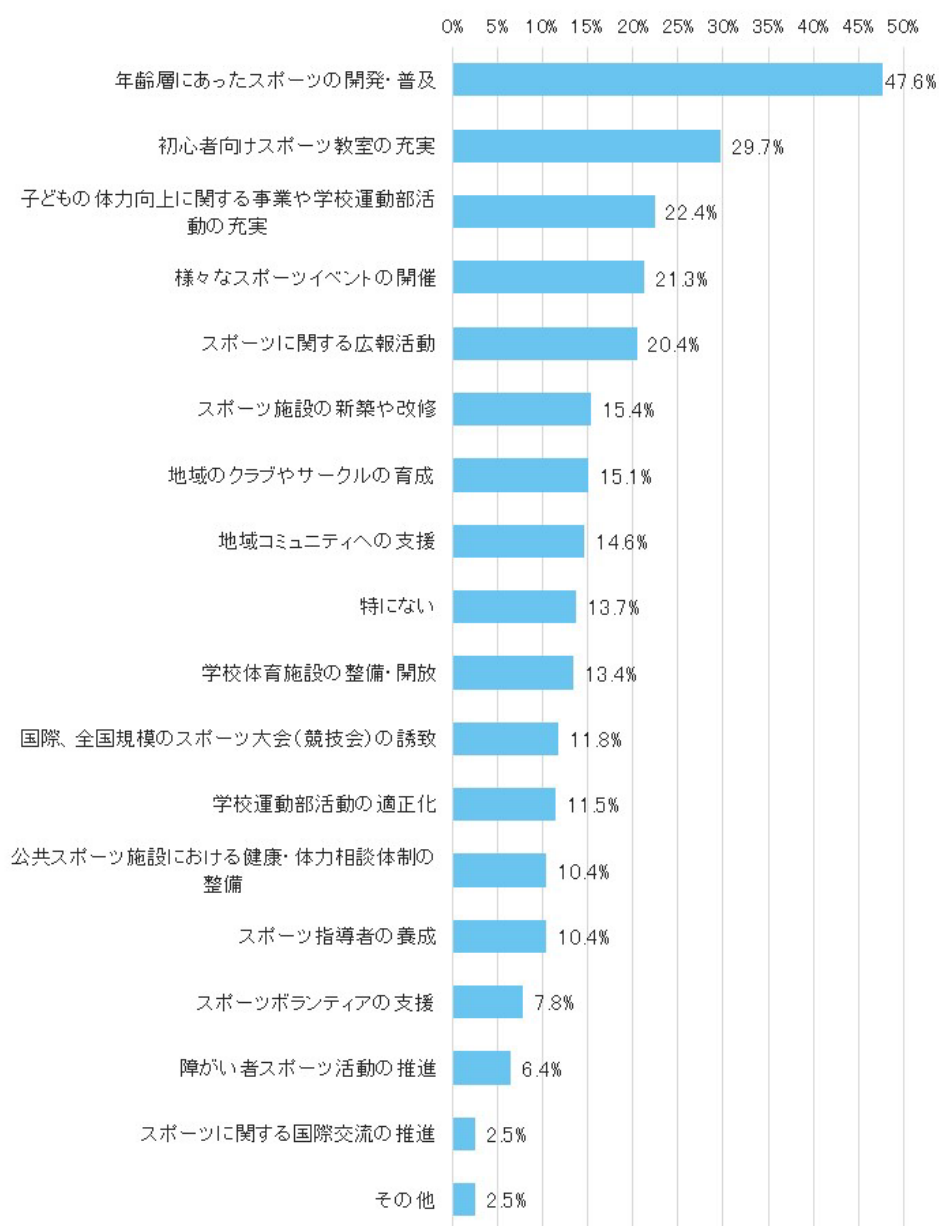
・「1,000円 (22.7%)」が最も多い。



〔スポーツを普及させるために必要なこと〕

問 41 常陸大宮市に対して、スポーツや運動をもっと普及させるために今後どのようなことに力を入れることを望みますか？（回答は、5つまで）

- ・「年齢層にあったスポーツの開発・普及（47.6%）」が最も多い。
- ・「初心者向けスポーツ教室の充実（29.7%）」、「子どもの体力向上に関する事業や学校運動部活動の充実（22.4%）」、「様々なスポーツイベントの開催（21.3%）」、「スポーツに関する広報活動（20.4%）」といった回答も多くなっている。



第2次 常陸大宮市スポーツ推進計画

発行日：令和5年（2023年）3月

発行：常陸大宮市教育委員会

編集：常陸大宮市教育委員会 文化スポーツ課

住所：常陸大宮市中富町3135番地の6

電話：0295 - 52 - 1111

FAX：0295 - 53 - 6502

Mail：bunsupo@city.hitachiomiya.lg.jp